2021(令和 3)年度

甲南女子大学

教職課程年報

甲南女子大学　教職支援課

目　　次

１．2021(令和 3)年度動向

(1) 本学教職課程・保育士課程 3

(2) 教職課程履修者数 4

(3) 介護等体験者数 4

(4) 教育・養護実習生数 5

(5) 保育実習生数 6

(6) 教員免許状取得者数（一括申請） 7

(7) 学校教員および保育士就職状況 8

２．学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について 9

(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について 10

３．教員免許状更新講習の実施について 10

４-1．各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　足立　美里 11

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　福田　遥菜 13

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　佐藤　里咲 15

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　原囿　百花 16

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　吉野　まなみ 18

✧　小学校教育実習　感想文　総合子ども学科　畑　江里奈 20

✧　小学校教育実習　感想文　総合子ども学科　室宮　佑衣 22

✧　小学校教育実習　感想文　総合子ども学科　本荘　里菜 24

✧　合格体験記　総合子ども学科　佐々木 萌音 26

✧　合格体験記　総合子ども学科　佐藤　碧 28

✧　合格体験記　総合子ども学科　池尻　実生 30

✧　合格体験記　総合子ども学科　秋山　祐香 31

４-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

✧ 高等学校教育実習　感想文　日本語日本文化学科　東　亜美 32

✧ 中学校教育実習　感想文　日本語日本文化学科　西岡　紗希 34

✧ 合格体験記　英語文化学科　照屋　菜々 35

４-3. 各種体験記（医療栄養学科-栄養教諭課程）

✧ 栄養教育実習　感想文　医療栄養学科　中谷　まりな 37

✧ 栄養教育実習　感想文　医療栄養学科　永田　彩子 39

４-3. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己課題を考える

看護学科　舛賀　鈴夏 41

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己課題を考える

看護学科　鎌内　侑奈 43

✧ 目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己の課題を考える

看護学科　森定　直子 45

✧ 養護実習を終えて　看護学科　居内　高穂 47

✧ 養護実習を終えて　看護学科　谷場　美月 55

５．教職支援課の概要

教職支援課の体制について 67

教職支援課の利用について 67

６．教員の養成の状況についての情報

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること 68

2021(令和 3)年度　教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する

学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること 71

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること 72

１．2021（令和 3）年度動向

(1) 本学教育課程・保育士課程

本学教職課程･保育士養成課程において､取得可能な教員免許状･資格は以下の通り。

＜学部＞

学部・研究科	学科・専攻	取得可能な免許状・資格
文学部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種(国語)
		高等学校教諭一種(国語)
	英語文化学科	中学校教諭一種(英語)
		高等学校教諭一種(英語)
	多文化コミュニケーション学科	中学校教諭一種(英語)(※2)
		高等学校教諭一種(英語)(※2)
国際学部	国際英語学科	中学校教諭一種(英語) (※3)
		高等学校教諭一種(英語) (※3)
人間科学部	心理学科	中学校教諭一種(社会) (※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
	総合子ども学科	幼稚園教諭一種
		小学校教諭一種
		保育士
	文化社会学科	中学校教諭一種(社会)(※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
	生活環境学科	中学校教諭一種(社会) (※2)
		高等学校教諭一種(公民)(※2)
看護リハビリテーション学部	看護学科	養護教諭一種
医療栄養学部(※1)	医療栄養学科	栄養教諭一種

※1 2018 年度に学部学科を開設。

※2 2019 年度生から廃止。

※3 2020 年度に学部学科を開設。

＜大学院＞

研究科	専攻・コース		取得可能な免許状
人文科学総合研究科	言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中学校教諭専修(国語)
			高等学校教諭専修(国語)
		英語英米文学コース	中学校教諭専修(英語)
			高等学校教諭専修(英語)
	心理・教育学専攻	心理学総合コース	高等学校教諭専修(公民)※
		臨床心理学コース	高等学校教諭専修(公民)※
		人間教育学コース	幼稚園教諭専修
			小学校教諭専修
	社会・文化環境学専攻		中学校教諭専修(社会)※
			高等学校教諭専修(公民)※

※ 2019 年度生より廃止

(2) 教職課程履修者数

各学部学科の 1 年次に『教職論』を履修しながら「本当に教師に向いているのか？」「本当に教師になりたいのか？」等、教職課程の履修についてよく考え、2 年次から本格的に教職課程の履修を開始する。下表に科目等履修生は含まない。

＜学部＞

学　部	学　科	1年次(※1)	2年次	3年次	4年次	合計
文　学　部	日本語日本文化学科	17	12	16	10	55
	英語文化学科	－	－	4	7	11
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	－	－	－	0	0
国際学部	国際英語学科	24	7	－	－	31
人間科学部	心理学科	－	－	－	2	2
	総合子ども学科	150	157	162	160	629
	文化社会学科	－	－	－	3	3
	生活環境学科	－	－	－	0	0
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	16	19	19	12	66
医療栄養学部	医療栄養学科	13	24	7	5	49
計		220	219	201	194	846

※1 1 年次の履修者数については、幼稚園・小学校課程は免許状取得希望調査の結果に基づき、中学校・高校・養護教諭課程は授業「教職論」履修者数に基づく。

(3) 介護等体験者数

2021 年度は、コロナウイルスの影響により、代替措置となり、実際の体験を実施することが出来なかった。

(4) 教育・養護実習生数

＜学部・学科別＞

学　部	学　科	幼稚園	小学校	中学校				高校				実習生数
				国語	英語	社会	養護	国語	英語	社会	養護	
文　学　部	日本語日本文化学科			5				5				10
	英語文化学科				7				1			8
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科											0
人間科学部	心理学科					1				1		2
	総合子ども学科	138	46									184
	文化社会学科					1				3		4
	生活環境学科											0
	医療栄養学科		5									0
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科		13									13
合計		138	64	5	7	2	0	5	1	4	0	221

※中高一貫校に教育実習の場合は、中学、高校ともに数に含んでおります。

＜地域別＞

都道府県	幼稚園	小学校	中学校	高校	養護	栄養	合計
福井県		1					1
滋賀県		1					1
京都府	3	1		1			5
大阪府	45	21	7	4	7		84
兵庫県	78	19	6	4	5	5	117
奈良県	5				1		6
和歌山県	1						1
島根県		1					1
岡山県		1					1
山口県	1						1
徳島県	1	1					2
香川県	1		1	1			3
愛媛県	2						2
熊本県	1						1
合計	138	46	14	10	13	5	221

(5) 保育実習生数

保育実習ＩＡ・ＩＢでは、近畿地方を実習地と限定している。

保育実習Ⅱ・Ⅲでは、卒業後に保育士としてＵターン就職を希望する学生について、保育士養成課程の担当教員と面談を実施した上で近畿圏外での実習を認めている。

＜学年別＞履修者数

履修者	保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
総合子ども学科2年	100	99			199
総合子ども学科3年					0
総合子ども学科4年			87	28	115
計	100	99	87	28	314

＜地域別＞実習件数

地域	保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
滋賀県	0	0	0	0	0
京都府	1	3	0	0	4
大阪府	34	40	34	11	119
兵庫県	64	53	48	16	181
奈良県	1	3	4	1	9
和歌山県	0	0	0	0	0
計	100	99	86	28	313

※保育実習ＩＡ・ＩＢについては、原則、２年次に１名の学生がＩＡとＩＢの２科目を履修し、２ヶ所で実習を行う。

(6) 教員免許状取得者数（一括申請）

本学教職課程における、2021 年度学部卒業生の免許取得状況は、取得件数の合計が 292 件、取得者数の合計が 197 名となっている。また、保育士資格取得者数は 112 名である。

（参考…前年度実績：免許状取得件数 248 件/取得者数 168 名，保育士資格 98 名）

2021年度　教員免許・保育士資格取得状況

学部	学科	中学校一種				高等学校一種				幼稚園一種	小学校一種	養護一種	栄養一種	教員免許取得件数	実人数	保育士資格
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計							
文学部	日本語日本文化学科	10			10	10			10					20 件	10 名	
	英語文化学科		6		6		6		6					12 件	6 名	
	多文化コミュニケーション学科				0				0					0 件	0 名	
人間科学部	心理学科			1	1			1	1					2 件	1 名	
	総合子ども学科				0				0	157	77			234 件	159 名	112 名
	文化社会学科			3	3			3	3					6 件	3 名	
	生活環境学科				0				0					0 件	0 名	
医療栄養学部	医療栄養学科												5	5 件	5 名	
看護リハビリテーション学部	看護学科											13		13 件	13 名	
計		10	6	4	20	10	6	4	20	157	77	13	5	292 件	197 名	112 名

研究科	専攻	中学校専修				高等学校専修				幼稚園専修	小学校専修	教員免許取得件数	教員免許取得者数
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計				
人文科学総合研究科	言語・文学専攻												
	心理・教育学専攻												
	社会・文化環境学専攻												
計					0				0	0	0	0 件	0 名

※いずれも、個人申請件数は含めない。

(7) 学校教員および保育士就職状況

＜公立学校教員・保育士＞

学　部	学　科	雇用形態	教員就職者数				保育士
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園
文　学　部	日本語日本文化学科	教諭					
		講師			4		
	英語文化学科	教諭			2		
		講師			1		
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	教諭					
		講師					
人間科学部	心理学科	教諭					
		講師			1		
	総合子ども学科	教諭	2	19			3
		講師	2	6			1
	文化社会学科	教諭					
		講師			1		
	生活環境学科	教諭					
		講師					
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	教諭					
		講師			1		

＜私立学校教員・保育士＞

学　部	学　科	雇用形態	教員就職者数				保育士
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園（施設含む）
文　学　部	日本語日本文化学科	教諭					
		講師			3	2	
	英語文化学科	教諭					
		講師					
	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	教諭					
		講師					
人間科学部	心理学科	教諭					
		講師					
	総合子ども学科	教諭	52				31
		講師					
	文化社会学科	教諭					
		講師					
	生活環境学科	教諭					
		講師					
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	教諭					
		講師					

※幼保連携型子ども園は幼稚園に計上。
※日本語日本文化学科の１名は中高一貫校のため、中学校・高等学校に計上。
※保育士は、正規採用を教諭の欄に記載し、非正規を講師の欄に記載。

２．学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座とは

・幼保実践講座とは、授業以外の日程で、教職支援課の先生が、実習や幼保関係の就職活動の際に役に立つ講座を提供している。
・2021 年度は密を避けるため、オンライン講座として、ZOOM を使用した。

＜学生の声＞
―　アンケートを一部抜粋　―

・エプロンシアターの題材となる種類もたくさんあることを知り、
実習でも実践的に使えるので、作ってみたいな、と改めて思いました。

・エプロンシアターは、とても可愛くて見ていてとても楽しく、作りたいと思いました。説明もわかりやすく、あんな風に子どもたちに楽しく見せられるようなエプロンを作りたいと思いました。

(2) 2021 年度　幼保実践講座　実施報告

	開講日	開講時間	会場	実施内容
第1回	5 月 26 日（水） 5 月 27 日（木）	12:10～12:55 12:10～12:55	ZOOM	「フェルトを使って、名札を作ろう」
第2回	6 月 2 日（水） 6 月 3 日（木）	12:10～12:55 12:10～12:55	ZOOM	「ペープサート、スケッチシアターを作ってみよう」
第3回	6 月 9 日（水） 6 月 10 日（木）	12:10～12:55 12:10～12:55	ZOOM	「手袋シアターを作ってみよう」
第4回	6 月 16 日（水） 6 月 17 日（木）	12:10～12:55 12:10～12:55	ZOOM	「身近な物を使って遊ぼう」
第5回	11 月 22 日（月）	12:10～12:55	ZOOM	「パネルシアター」
第6回	11 月 29 日（月） 11 月 30 日（火）	12:10～12:55 12:10～12:55	ZOOM	「エプロンシアターを作ろう」
第7回	12 月 7 日（火）	12:10～12:55	ZOOM	「カレンダー表、当番表を作成してみよう」

(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について

教員採用試験および公立幼保採用試験の受験を検討している学生に向けた教職課程履修者への支援として、外部業者協力のもと学内で対策講座を開講している。
また、本学では中高希望者対象に、教員を目指す学生たちのグループを立ち上げた。グループを『Teacher’s Café』と名付け、英語文化学科・赤井先生、日本語日本文化学科の冨田先生のご指導のもと、教員採用試験突破に向けた勉強会を実施。週 2～3回のペースで実施している。

※Teacher’s Cafe について、前期は、新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が発出されたため 5 月以前は実施しておりません。

開催日	内容	対象者
2021年6月23日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年7月21日	模擬授業	中高教員を志望する学生
2021年10月12日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月13日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月18日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月19日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月20日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月25日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月26日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年10月27日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月1日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月2日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月3日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月8日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月9日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月15日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月16日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月17日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月22日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月24日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年11月29日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年12月1日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年12月6日	面接・集団討議	中高教員を志望する学生
2021年12月7日	教職教養・模擬授業	中高教員を志望する学生
2021年12月8日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年12月13日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年12月14日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年12月15日	面接・集団討議の実技	中高教員を志望する学生
2021年12月20日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年1月12日	Teacher's　Café　勉強会	中高教員を志望する学生
2021年1月24日	面接・集団討議	中高教員を志望する学生
2021年1月26日	模擬授業	中高教員を志望する学生
2021年1月31日	面接・集団討議	中高教員を志望する学生

３．教員免許状更新講習の実施について

2021 年度（令和 3 年度）教員免許状更新講習は、2021/8/20～8/25 に対面・オンデマンドを活用し実施した。

４-1．各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

幼稚園教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
足立　美里

私は母園に幼稚園実習に行きました。実習園は、年少～年長のクラスが 18 クラス、満 3 歳児クラスが 2 クラスに加え、2 歳児クラス、保護者と一緒に通う 0・1 歳のクラスがある大規模な幼稚園です。私は実習前とても不安でしたが、一日一日がとても早く、たくさんの学びを得られた充実した実習になりました。
担当した学年は、年長クラスで 1 か月間同じクラスで実習を行いました。
9 月は運動会の練習が主な活動でした。運動会では、リレー、サッカー(双方向折り返しリレー)、タイヤ取り、3 人 1 組の股くぐりリレー、綱引きを行いました。
初めて子どもたちが実践したときから一か月間見ていると、上達していく姿や勝負を楽しむ姿、競技に対する意欲の高まりや真剣になっていく様子が驚くほど目に見えて感じることが出来ました。
子どもたちの運動会に対する意欲の高まりは、競技のルールを理解し楽しく出来るようになったということもあると考えますが、保育者の関わりを見ると常に前向きな声掛けをして、戸惑っている子どもには寄り添って子ども自身で出来るよう援助しているため、子どもたちは前向きに楽しく競技をしていたと感じました。保育者が行う声掛けは、子どもの様子をしっかり見て把握していなければ、一人ひとりに合った声掛けはとっさにできるものでは無いので、全体の様子を把握しつつ、子どもの自信につながるような臨機応変な行動や声掛けが出来ることは大切であると学びました。実際に私も声掛けをしていたのですが、同じような声掛けの仕方になっていたので、先生方の話し方や声掛けの仕方等から様々な方向からの声掛けの仕方を学ぶことが出来ました。
実習中、子ども同士での喧嘩やトラブルがあったとき、泣いている子どもを見ると直ぐに介入したくなってしまうのですが、子どもたち自身で解決できることもあるので、子どもたちの状況を把握した上で様子を見守るということも保育者の判断で重要であることを学びました。
部分実習では沢山の実践を経験することが出来ました。毎日行う手遊びと紙芝居では、5 歳児に合った紙芝居の選び方や、読み方、手遊びの楽しみ方等、最初は緊張しましたが保育者からの助言を通して、自分自身も楽しく手遊びや紙芝居をすることが出来るようになりました。特に手遊びは、子どもたちが静かな状態では無い所から始めるので、子どもたち全員がどのようにすれば視線を前に注目できるか、楽しく出来るかを試行錯誤しながら行いました。実習の後半頃には、子どもたちから「これやって！」「明日もやってね！」等の声が聞こえてくるようになったり、楽しさが笑顔や笑い声から溢れ出ていたりする様子を見ることができ、とても嬉しかったです。
30 分間の部分実習で行った「どん！じゃんけんぽん」では、運動会で実践していることやチーム分け等を活用し、円滑に活動できるよう工夫しました。子どもたちは楽しく活動している様子でしたが、反省点や課題はたくさんあります。実践する前に当日の

様々な想定は行うのですが、いざ実践となると考えられていない部分が多くあり、自分自身に余裕がなく焦ってしまうことがありました。各チームの人数の差や、子どもたちがチームの色ごとに分かれられているかの確認の仕方、全体に通るような声の大きさや伝え方、活動に応じた臨機応変な展開の工夫等、実践してみなければ見えてこないことが沢山あることに気付くことが出来ました。
また、説明も伝え方を少し変えるだけで子どもたちの反応が全く違うので、子どもに伝える時の声掛けの仕方やテンポ、言葉選びをよく考えることが大切であると改めて実感しました。
活動中は、チーム対抗戦ということもあり、子どもたちが同じチームの応援をしたり、前のめりになって夢中になっていたりする姿が子どもたちから自然と出てきたので、反省点は多くありますが、この部分実習を実践することが出来てとても良かったなと、実習を終え半年が経った今でも記憶に鮮明に残っています。
一か月間の幼稚園実習を振り返ると、最初は子どもたちとの距離感がぎこちない部分があったり、名前を把握しきれておらず言葉に詰まったりすることがありましたが、日に日に子どもたちと自然に関われるようになり、「先生」と笑顔で話しかけて来たり、心を開いてくれるようになったことがとても嬉しかったです。
実習後から現在も実習園に保育補助として年少クラスの保育に参加させて頂いているのですが、園内で会った時に笑顔で駆け寄って来たり、クラスでの出来事を話してくれたりするので、実習を行った一か月は私にとっては「実習」という記憶になりますが、子どもたちにとっては「新しい先生」が来た一か月の記憶に残るのだと感じました。
　今回の実習で学んだことや反省点を今後の実習や保育を考える時に振り返り、保育の幅を広げられるよう、勉学に励み、次の実習や就職後に繋げられるよう前向きに様々なことに取り組んでいきたいです。
一か月という貴重なお時間を頂きありがとうございました。保育者の方々にはたくさんのご指導を頂き本当に感謝しています。
ありがとうございました。

幼稚園教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
福田　遥菜

幼稚園実習で、5歳児クラスを担当し、主に運動会に向けての援助を学びました。子どもたち自身で作り上げたと感じられるように、運動会でどの競技を行うか、太鼓のリズム、竹馬の技などを子どもたちで話し合いながら決めていたことが印象的でした。運動会で5歳児は、アナウンス、道具出しなどの運営、看板などの装飾も担い、親が見たときに子どもたちの成長が感じられるような工夫が必要となります。最年長であり、お兄さんお姉さんでもあると感じ、責任感や誇りをもてるように、保育者の声掛けは大切だと感じました。昨年の運動会を知っている子どもも多かったので、憧れであったお兄さんお姉さんが何をしていたかも覚えている様子であり、子どもたちが憧れの存在に近づいていると感じられるような声掛けも必要であると思いました。リレーなどのルールのある競技では、始めから保育者がルールを伝えるのではなく、子どもたち自身でどのようなルールが必要なのかを考えるようにしていました。勝敗はどうしたらつくのか、人数が違っていてもいいのか、というルールを保育者が問いかけ、子どもたちで解決案を考えるように促していました。なぜそのようなルールがあるのかを子どもたちが自然と理解できるように保育を進めると、単にルールを知った時よりも、ルールの大切さに気づくことができると思いました。
跳び箱では、グージャンプから三段、四段、縦向きというように、徐々にレベルを上げていくことで、子どもたちがひとつ一つの動作でのポイントを抑えながら進むことができるのだと感じました。運動会に向けての活動はどうしても動の活動が多くなってしまいがちですが、静の活動を交互にして、落ち着いた気持ちの中で保育が進むようにするという配慮も大切だと教わりました。

また、私の実習中に新入生が入ってきました。そこで、新入生が入ってきたときの対応なども教わることができました。新入生への配慮として、どのグループに入れるのかという事はとても大切です。家が近い子どもの近くにする、面倒見のいい子どもの近くする、などの配慮が必要だと教わりました。新入生は新しい環境で不安を感じる子も多いと思うので、席が隣の子どもとすぐに仲良くなれ、その子どもと一緒に幼稚園が終わった後も遊べる環境を作るということは大事だと思いました。新入生だけでなくグループ分けは大切で、リーダーをあえて入れず、リーダーを任せたいと考えている子どもが、自然とリーダーになろうと考えるようにする事も必要だと教わりました。グループの一つ一つにも保育者の様々な思いが詰まっているのだと感じ、そのような細かな配慮をすることが、子どもたちが成長していく中で特に大切になるのだと分かりました。

実習中に特に私が難しいと感じたのは、好きな遊びの時間での保育者の援助です。先生に相談すると、好きな遊びの時の援助は、保育者が声掛けをすることでさらに楽しくなるかどうかというところを考えて関わるといいとアドバイスをもらいました。好きな遊びの中でも保育者のねらいを中心に考えて、子どもたちに気付いて欲しい所や、感じて欲しいものなどを大切にしながら、声掛けや援助をすることで、子どもたちが成長していけるのだと分かりました。

部分実習は、朝の会やお弁当の挨拶など日常の実習と、栗の製作の実習をさせていただきました。日常の実習では、次の活動に行くまでの間の何気ない会話が大事なのだと知りました。活動の間の会話を通して、子どもたちの次の活動への期待感が変わってきて、期待感をもって活動することで、活動への集中力や子どもたちが活動を楽しく感じられるのかが変わってくるのだと感じました。
栗の製作では、特に子どもたちの作ってみたいという気持ちが大切で、作ってみたいという気持ちを引き出すためにも、保育者の声掛けや導入が重要になっていくと感じました。また、製作を作る時に保育者のイメージと子どもたちのイメージを合わせる事も大切だと分かりました。今から配るものは何になるのか、どのように切れば今から作るものに近くなるのかなど、実際に保育者が子どもたちに作って見せ、イメージができた上で、製作に取り組めるようにすると保育者のイメージと同じ製作をすることができると分かりました。保育者は子どもたちにどのようなものを作って欲しいのかを明確にし、どの程度の範囲までは子どもたちの個性として認め、ここは揃えて欲しいと思うところは子どもたちが納得した上で揃えられるように声掛けをすることが大切だと思いました。
私は栗の製作を２日かけて行ったのですが、１日目に先生にアドバイスをもらったことは、指導案とは別に、自分用のメモを書いておくと、落ち着いて保育をすることができるということです。メモには保育の流れと、どのように説明をするのか、声掛けの仕方など、細かく書きます。メモに書き出すことによって頭の中が整理され、流れもスムーズに進めることができると感じました。特に私は緊張してしまうので、メモをもっておくだけでも緊張が少し和らぎました。
反省点は製作の時間配分が大きくずれてしまったことです。製作は個人差が多く、説明をするタイミングが掴めなかったことが原因ではないかと思いました。説明をそれぞれのパートに区切ってする、説明の時間をできるだけ短くする、など工夫が必要なのだと感じました。
また、栗を折り紙で作ったのですが、私は大きい折り紙を用意して子どもたちが見やすいようにしましたが、子どもによっては同じ大きさの方が分かりやすい場合もあると教えてもらいました。同じ方向、同じ大きさ、同じ向きで折ると、より子どもたちに分かりやすく伝わったかもしれないと思いました。また、工程表を作るなどすると、途中で分からなくなった場合でも、子どもたちのペースで作ることができるのだということを教えてもらいました。次からはクラスの様子を考えて、どのような配慮をするかを考えていきたいです。
　１ヶ月という期間は長いようでとても短く感じました。この１ヶ月間で多くのことを学び、自分にこんなことができるのかと不安に思っていた私に、「できなかった先生なんていないし、自分の考えが正しいのか分からなかったら、他の先生に自分はこのように考えているのですがどう思いますかといっぱい質問するといいよ」と声をかけてくださいました。まだまだ不安はいっぱいありますが、自分なりの考えをもって保育に向き合っていきたいと思います。

幼稚園教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
佐藤　里咲

幼稚園実習は4週間で行われますが、毎日の活動や、子どもに対する援助などが変化するため、とても学びになるのと同時に、反省することもありました。

私は、年少・年中・年長と全てのクラスで実習をさせていただきました。年齢によって、違った関わり方や援助が見られましたが、同じ年齢であっても各クラスにあった活動などがあり、自分の思っている以上に子どもたちの普段からの様子、特徴を捉えなければならないと思いました。そのため、保育者が各場面によって言葉かけがどのように変化しているかを観察し、保育者の子どもたちへの援助や声掛けを真似しながら実践をしていきました。その中でも、子どもたちと関わる時は、積極的に声を掛けていくことが大切であると学びました。実習に行くまでは、積極的に声を掛けることは、すぐに出来ると思っていましたが、実習の場となると、どこで声を掛けたら良いのか、活動中に声を掛けて良いのかなど、自分が緊張してしまい、なかなか子どもたちに声を掛けることが出来ませんでした。ですが、子どもたちからすると、普段保育の場にいない私がいることで、緊張感や不安を抱いてしまっているのではないかと感じたので、自由遊びをしている時などに積極的に声を掛け、子どもたちと関わる機会を増やしていきました。子どもたちと関わる機会が増えただけでなく、子ども一人ひとりについてよく観察することが出来たと思います。

また、実習期間中に運動会の練習も行っており、保育者がどのように運動会の準備をし、子どもたちと練習を行っているのかなどを観察し、実際に練習に参加させていただきました。準備では、ダンスなどで使用する小道具作りや、リレーの順番決めなどがありましたが、その他にもどのようにダンスや、動きを伝えるかなどといった話し合いをしていました。子どもたちが話を聞きたくなるような工夫がしたいという声や、見通しや目標を伝えて、期待感を持つことができる声かけが必要といった話の内容もありました。これは、運動会がある期間だけでなく、保育をしていく中で、重要なことであると学びました。保育者の方からは、予想される子どもの活動を、細かく考えておく必要があると教えていただきました。また、部分実習をする機会をいただき、製作活動を行いました。子どもたちがしっかりと内容を理解することが出来るよう、まずは見本を見てもらい、話す速さに気を付けました。部分自習を終え、保育者の方からいただいた言葉は、話す速さは年齢によって変えても良いということ、子どもたちが制作活動により興味を持つことが出来るように、声に強弱をつけると良いということでした。そして、部分自習を通して学んだことはたくさんありますが、その時に応じて行動や活動を変えていくことが、保育者の役割であることを改めて理解し、学ぶことが出来ました。保育者は、子どもたちの様子を見守り、必要に応じて援助などを行っていますが、何より子どもたちと一緒に楽しむことが大切であることを、今回の幼稚園実習を通して、学ぶことが出来ました。

今回の実習で学んだこと、得たものを忘れず、これからの実習などに活かしていけるよう、実習記録や指導案を見直し、子どもと関わっていく中での声掛けや、反省点を改善し、さらに学びを深めていけるよう勉強に取り組みます。

幼稚園教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
原囿　百花

私は、認定こども園で教育実習をさせていただきました。優しく丁寧にサポートをしてくださった先生方や、元気いっぱいの子どもたちに囲まれて、一日一日が本当にあっという間に感じられるほど、4 週間の実習は充実していたと思います。実習を行うにあたり、子どもと関わる中で一人ひとりの性格や成長・発達段階を理解し、子どもが前向きに活動できるようにそれぞれに合った言葉掛けや援助をすることと、年齢ごとの成長や保育・教育の展開の仕方の違いについて学び、最後には実際に保育を実践することを教育実習の大きな目標としていました。

実習前半の 2 週間は 2 歳から 5 歳までのクラスに入らせていただきました。日替わりで様々な年齢の子どもと関わることができたことで、遊びの様子や子ども同士の関わり方が年齢ごとに変化していることや、子どもにとって保育教諭がどのような存在であるのかなどが徐々に見えてくるようになりました。2 歳児クラスに入った初日は、机上で学んでいる発達段階から想像するよりも、実際の成長発達がはるかに豊かであることに驚いたと同時に、自我が確立し始める時期の子ども同士の関わりを見ることに新鮮さを感じました。友達がしている遊び・持っている玩具を魅力的に感じ、“自分もやりたい”と気持ちを表現する好奇心旺盛な子どもばかりでしたが、友達と玩具を共有しながら一緒に遊ぶことは 2 歳児の発達段階的にはまだ難しく、自分の思い通りにいかないことに直面して悔しい悲しいという気持ちを経験している姿が多々見受けられました。3 歳児のクラスでも、自我がより強くなることで、そのような姿が 2 歳児よりも顕著に見られるようになり、物の取り合いやトラブルが多くなっていたように感じました。2 歳児と 3 歳児のクラスの先生方は、言葉で気持ちを表現することがまだ難しい子どもの思いを汲んだ言葉掛けをしたり、お互いの気持ちを受け止め代弁したりすることで、自分の思いを表現する方法が伝わるように関わりながら、子ども同士の関係を築く役割も果たしているのだと学びました。4 歳児では友達の存在を意識するようになることで協同遊びを楽しむ姿が見られ、子ども同士の結びつきが徐々に強くなっていることを感じました。また、自分の思いを少しずつ言葉で表現し、相手に伝えられるようになることで子ども同士のトラブルも増えて、どのように対応することが両者にとって良いのか考えながら関わることが非常に難しかったです。先生方は、3 歳児を対応する時のようにすぐに仲介して子ども同士の気持ちを代弁するのではなく、子どもたち自身が友達の思いを考えたり受け止めたりできるように言葉掛けはしつつ、時には自分たちで解決しようとする様子を尊重して、仲介せずに一歩引いて見守ることも大切にされていました。このような場面を見て、4 歳児の先生方は子ども同士の関係が深まるように、状況に合わせて対応を変えていることが分かりました。

実習後半の 2 週間は 5 歳児の 1 クラスを担当させていただきました。5 歳児では今まで以上に子ども同士の結びつきが強くなり、仲の良い友達と遊びを選びながら一緒に楽しむ姿が見られました。そのような 5 歳児の発達段階を踏まえて、一人ひとりが主体的に活動する場面と、友達と協力しながら活動を進める場面の両方の要素を取り

入れた活動を展開されており、活動を通して協力することの大切さを子どもたちが経験できるように、そして子ども同士の関わりが更に深まるように工夫していることを学びました。また、頭の中でイメージしたものを砂や粘土・廃材、様々な道具を使って目に見える形で自由に表現したり、遊びの中で友達とイメージを共有しながらごっこ遊びをしたりする姿が見られ、子どもたちの発想力の豊かさが感じられました。そのような豊かな発想力や表現力は、日々の多様な活動や遊びの中で育まれているということと、その能力をさらに伸ばしたり感性を養ったりできるように、イメージが広まり深まるような言葉掛けをすることが大切であると実感しました。5歳児のクラスに2週間入らせていただいたことで、5歳児の子どもが有する感性や社会性、主体性などは、不意に身についたものではなく、5歳になるまでのクラスでも保育教諭が様々な工夫を凝らしながら保育・教育を行ってきたことで徐々に培われてきたものだということを強く感じました。そして、今まで培ってきたものを活かしながら小学校への生活へと繋げていけるような保育・教育を5歳児のクラスで展開しているのだと学びました。

実習4週目には、5歳児クラスで設定保育をさせていただきました。4週間の実習期間の中で、子どもたちの前で手遊びをしたり絵本を読んだりすることは多々ありましたが、担当する子どもたちの発達段階に即した活動で、尚且つ子どもたちの学びに繋がるような活動を計画し、実行することは、手遊びや絵本の読み聞かせとはまた違った難しさがありました。一人で子どもたちの前に立つだけでも緊張しましたが、活動を楽しく円滑にできるように進行すること、時間配分を意識し、必要に応じて調整しながら進めること、全体を見つつ一人ひとりにもしっかり目を向けることなど、一人で活動を進めるのは非常に難しいことだと実感しました。同時に、活動を進めるにあたり保育教諭同士で連携を図ることの重要さを痛感しました。また、活動中の子どもの反応を見て臨機応変に対応することの大切さや、常に学びに繋がるような言葉掛け・関わりをすることが重要であると分かりました。例えば、リレーのチーム分けが必要になった時、予め保育教諭がチーム分けをしておけばスムーズですが、両チームの人数が同じになるように子どもと一緒に人数を数えながらチーム分けをすることで、数に触れる機会が持てることが分かり、そのような何気ないように思われる関わりも、子どもにとっては学びに繋がる重要な機会であることを学びました。自ら保育活動を考え実践してみると、上手くいかないことの方が多く、反省点が沢山見つかりました。設定保育を実践し得た反省と、先生方が行っていた保育・教育の活動や環境作りから得た多くの学びを活かして、今後の保育に繋げていきたいです。

今回の実習を通して、行事や日々の活動の流れを考え、準備をしたり実践したりする保育教諭の姿を見せていただけて、保育教諭という仕事の大変さや、やりがいを実感できたことに実習の意義を感じました。大変なことも沢山ありましたが、終始楽しく勉強させていただけて、将来自分がどのような保育教諭になりたいか、どのように保育・教育を考え、実践できるようになりたいか考える貴重な機会となりました。実習が始まる前は、4週間という長く感じられる実習期間に対して、期待よりも不安が勝っていましたが、実習が始まると、笑顔と元気いっぱいの子どもたちが毎日「ももか先生」と駆け寄って来てくれたり、たくさん一緒に遊んだり、一人ひとりの子どもの成長を間近で見たり感じたりすることができて、本当に嬉しかったです。子どもたちと一緒に過ごした日々は、私の一生の宝物です。

幼稚園教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
吉野　まなみ

私は、4 週間の幼稚園実習で 5 歳児、4 歳児、3 歳児クラスをそれぞれ担当させて頂きました。

5 歳児クラスでは、外国人の先生をお招きして行った英語の遊び、リレーや竹馬などの運動会に向けた活動、避難訓練、身体測定など、様々な内容がありました。特に印象に残っているのは竹馬です。初めは 1 人で竹馬に乗ることが出来なかった子どもが、毎日努力を重ねていくうちにだんだんと自分で乗れるようになっていく姿や、自分で乗れるようになって喜ぶ笑顔を見られたことがとても嬉しく、感動した瞬間でした。また、担当した 5 歳児クラスには、知的障害があり、1 人で乗れるようになるには難しい子どももいましたが、担任の先生は、完璧に乗れるようになることが目的ではなく、みんなで一緒に竹馬を楽しむことを目的としているとおっしゃっていました。この言葉を聞いて、障害のある子どももそうでない子どもも一緒にみんなで楽しい時間を共有できるような工夫や声掛けをすることが大切だということを改めて感じました。5 歳児クラスでは、絵本の読み聞かせを 4 回、30 分間の研究保育を 1 回、クイズを 1 回やらせて頂きました。絵本の読み聞かせでは、季節に合った月の絵本を読み、月に関心を持てるような声掛けをすることを意識しました。初めは緊張していましたが、回数を重ねるごとに自分も楽しみながら読むことが出来るようになったと感じています。研究保育では、ピンポン玉を使った遊びを行いました。とても緊張したし、想定外のことが起こったり時間に焦ったりして思うようにいかず、自分の中では反省点ばかりでしたが、見に来て下さった先生方に細かなアドバイスや良かった所を伝えて頂き、自信を持てるような言葉を沢山掛けて頂きました。保育を計画して 1 人で進めることの難しさを感じたとともに、自分の課題が見つかって、もっと頑張りたいと思える貴重な体験をすることが出来ました。

次に担当したのは 3 歳児クラスでした。5 歳児クラスから 3 歳児クラスとなると、保育の内容が全く異なり、一つ一つ声掛けをしたり、自分で身の回りのことが出来るように環境構成も細かく設定したりすることが大切になるのだと感じました。3 歳児クラスでは、絵本の読み聞かせを 2 回、スケッチブックシアターを 1 回やらせて頂きました。1 回目の絵本の読み聞かせでは、3 歳児には少し長めのものを選んでしまったので、2 回目では 3 歳児に分かりやすく、繰り返しのある短めのものを選びました。また、3 歳児では絵本の前に手遊びも行いましたが、子どもたちと目を合わせながら一緒に楽しむことが出来て良かったです。スケッチブックシアターは、実習の前に 3 種類作っており、3 歳児クラスではおべんとうバスを使いました。私が実習をさせて頂いた園は昼食が弁当だったので、昼食が楽しみとなるように、昼食前にスケッチブックシアターを行い、参加型にすることで子どもたちが見るだけでなく、一緒に楽しめるようにしました。

最後に担当したのは 4 歳児クラスです。運動会が迫ってきて、運動会に向けた遊びが多く、リレーをする時に自分たちでルールを決められるように保育を進めているのが印象的でした。また、4 歳児クラスでは 5 日間のうち 4 日間、読み聞かせやピアノ、クイズをやらせて頂きました。読み聞かせでは、「釣りをしよう」というスケッチブックシアターも行いました。スケッチブックをただ見るだけではなく、釣りをする動きを子どもたちみん

なでやることによって、本当に釣りをしているかのような楽しさを味わえるように工夫しました。私のスケッチブックシアターを見て、同じようなものを作って欲しいと保護者の方にお願いした子どもがいたということを担任の先生からお聞きして、頑張って良かったと思い、とても嬉しかったです。クイズでは、○×クイズの時に子どもたちが問題を出し合える場を作り、人前で喋ったり自分が考えたクイズを出したりする経験が出来るようにしました。この○×クイズで、読み聞かせの時などにいつも後ろの方で静かに見ていた子どもが、クイズを出したいと手を挙げて、恥ずかしがりながらも一生懸命クイズを考え、言葉にしている姿が見られたことがとても嬉しく、やりがいを感じました。

このような経験から、私は保育の難しさだけでなく、子どもたちが楽しんでいる姿を見る嬉しさややりがいも沢山感じることが出来ました。実習前は、自分に何が出来るのかとても不安で、向いていないのではないかと自信が無くなってしまうこともありましたが、4 週間の教育実習を終えて自分に自信を持つことが出来たとともに、もっとより良い保育が出来るように日々精進し、学び続けたいと強く思いました。園の先生方には、コロナ禍で大変な中、また、運動会の準備などでお忙しい中、実習をさせて頂けたことに心から感謝しています。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

小学校教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
畑　江里奈

一ヶ月間の教育実習は、不安や戸惑いから始まり、充実感や教師になりたいと決意を新たにした日々でした。また初めて気づかされたこと、現場を目で見て肌で感じたことは私自身を大きく成長させてくれたものとなりました。

教育実習で得たものとして、まず一つ目に、行動しなければ始まらない、始めなければなにも起きないということです。教師が動かなければ児童は動かないし、児童が動くことによって教師が動かされることがあることを感じました。教師が一人一人に寄り添うとほんの小さなことでも行動することによって、児童はその思いに応えようとしてくれます。実習中に自分が授業をする際、置いてけぼりの児童が出ないように、そして児童の発言や発表を軸とした主体的で対話的な授業作りをしようとたくさん試行錯誤をしました。すると児童も授業中たくさん発言をしてくれ、真面目に問題にも取り組んでくれました。教師が動くことによって児童の活動が生き生きしたものになると実感しました。また授業以外にも、児童と教師が一心同体になったときに、学級経営や教科指導が上手くいくのではないかと思いました。動くことをためらわず、積極的に行動していきたいと思います。

二つ目に、人間関係の形成はあいさつから始まるということです。あいさつをするという日常行為の大切さを感じました。担任の先生は毎朝元気良く「おはようございます」と教室に入り、児童もそれに元気良く応えます。当たり前の光景ではありますが、このあいさつをするという単純な行為を、日常生活の中で本当に当たり前にできていたかと自身に問い直すことができました。これは教師が積極的にあいさつをしなければならないとか、児童は教師にあいさつをしなければならないとか、先行関係はどちらでもよく、人と会えば自然とあいさつができる状態が当たり前であり、それが人として認めることなのだと気づかされました。

次に教育実習で課題となったことは、授業作りです。それにおいて、児童観によって指導観や教材観が変わるということです。「児童」「教師」「教材」の関係が授業を作る上での基本であることは理解していたのですが、実際それを指導案に盛り込み、授業で形にすることはすごく難しいということに気づきました。授業作りはまず児童の実態があり、その実態に対する教師の思いを教材に反映させて授業を作っていくことで一人一人に寄り添う授業が作られていくと思うので、それを考える時間を作ることがどれほど大変なものであるかを痛感しました。何度も本時を考え直し、それでも上手くいかない授業がほとんどでした。授業時間という制限や、常に変化し動いていく児童の実態をとらえることなど、様々な決まりの枠組みの中で、質の良い授業を目指すことを自身の課題とし、勉強しなくてはいけないと思いました。また、「中心となる問い」を適切に立て、それを援助する掲示物やそれを掲示するタイミング、補助する教科書の扱いなどにもっと注意を払って授業づくりを行うべきだったと反省しています。授業のねらいをしっかりもって、それに沿った掲示物や資料を加えた授業を作れていたら、より良い授業になったと思います。

最後に、この実習中においての実習生ができるチャレンジは、担当教員の協力なしで

はできなかったと思います。予定通りに授業が進まないかもしれない、これでは上手く児童に伝わらないかもしれないと不安になってしまったときでも、「気にしなくて大丈夫」と言っていただき、本当に何から何まで自由にやらしていただける環境を作っていただきました。授業の振り返りでも長時間のご指導をいただき、本当に心から感謝したいと思います。そして、毎日の生活で児童と関わることが勉強で、毎日いろいろな表情を見せてくれる児童は本当に可愛らしく、短い期間でしたが、児童との信頼関係を少しではありますが、築くことができたのではないかと思います。思うようにいかず、心が折れそうになることもありましたが、児童の「授業分かりやすかった」「楽しかったよ」の一言にとても感動し、大きな支えとなりました。実習前より自分自身とても成長することができたと感じています。大好きな地元の小学校で、児童や先生方、担当教員に恵まれ、その中で教師になるための一歩を踏めたことを本当に幸せに思います。この教育実習で学んだことを人生に活かして、将来教壇に戻ってきたいと思います。

小学校教育実習　感想文

人間科学部　総合こども学科
室宮　佑衣

小学校実習で過ごした４週間は、たくさんの事を経験させていただき、とても充実した毎日でした。
コロナ禍のため、特別支援学校での実習や社会福祉施設での介護等体験が代替レポートになったこともあり、人生初めての実習が今回の教育実習でした。
私には４週間の教育実習での目標を決めていました。それは子どもたちにとってより良い授業とは何か、学ぶことと学級経営について自分の考えをより一層深めることです。

授業については毎日帰宅してから次の日の授業観察でどの視点から観察を行うのか、必ず決めるようにしていました。また、その中で教師の発問や板書の方法、机間巡視の回り方など児童と同じ視点に立ち、観察を行いました。例えば、板書はＵＤの観点から赤のチョークで文字を書かないこと、板書をパッと見ただけで今、何をしているのか分かるように板書を行うこと、漢字は書き順を守りどの部分が一番長いのか、部首の形は正確かなど一文字ずつ正確に書くことなどです。また、発問についてはすぐに児童が答えることができるものであるか、児童の「？」に働きかけることができているのか、といったものです。大学の講義で学ぶ際にはＵＤや児童の興味関心の高い内容を導入に組み込むといったものは本当に効果があるのか疑問に感じていました。しかし、実際に児童の前で板書を行うとその少しの工夫や配慮で児童の１時間の授業への姿勢が変わることに気が付きました。学級内には様々な児童がいます。得意不得意、好み、興味のあるもの、など全く同じ児童はいません。そのような中で児童の学習意欲をどうやって高めるか、興味関心にどのようにアプローチするのか、それは学級担任に求められる資質・能力だと思います。また、座学で学んだことと実際に教育現場で学んだことでは差があったとしても、座学で学んだ知識は実践につなげるための引き出しでもあります。引き出しが多ければ多いほど、目の前の児童の苦手や不得意にアプローチすることができると感じました。

私は１つでも多く授業実践を行いたいことを事前のオリエンテーションで伝えていたので、２週目から授業実践をさせていただきました。その中で、やはり教師には対応力と臨機応変さが求められると感じました。私は研究授業で算数の第１時の授業を行いました。これまでの学習との関連があったのにもかかわらず学級の半分が理解しないまま１時間が過ぎてしまいました。この反省からその日に使用したワークシートを回収し、何ができていなかったのか、どこでつまずいてしまっていたのかを分析し、次の日の授業で復習の時間を十分に確保しました。その研究授業で授業を見に来てくださった他学年の先生から「子どもたちは？が原動力だからね。なんで？って感じることが一番の導入だよ。」という言葉を頂きました。この言葉は、今教員採用試験に向けて自分自身の教育観を深める際に一番重要にしている言葉です。児童にとって楽しい授業、やってみたい、知りたい！と感じることができる授業こそが児童の学習意欲、主体性、深い学びを引き出すものであると感じます。

つぎに、学級経営についてです。私の担当させていただいた学年が２年生だったこともあり、担任の先生は「ルールとマナーをまもる」ということを大切にされていました。マナーに関しては、友達や教師への言葉遣い、挨拶といったものから食育に関すること、物の扱いなど様々な場面で指導されていることが印象に残っています。児童に様々な場面で「ルールとマナー」という言葉を出すことで児童の中で意識が深まっていく様子を見ることができました。学年や児童の発達段階の実態に合った学級で大切にすることを明確にし、認め合い、協働する学級づくりに精進されている先生方をみて、尊敬するとともに私もそのような教師になりたいと感じました。また、児童に何か指導する際に「なぜしてはいけないのか」といった理由をはっきりと児童に伝えることで児童の中での意識というものが変わっていくのだと思います。ただ頭ごなしに叱ったり注意をしたりするのではなく、明確な理由を伝えることを意識することで児童にも想いが伝わることを改めて学びました。

今回の教育実習では授業に関することだけでなく、日々の学級経営や児童との関わり方、保護者対応といった様々なことを学ばせて頂きました。その中で私自身たくさんの反省点・課題点を見つけることができました。その課題を解決し、より教師としての資質・能力を向上させるためにも勉学に励み、また現場で学べる機会では積極的に学びを広げていきたいと思います。緊急事態宣言下にも関わらず、沢山の事を経験させてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

小学校教育実習　感想文

人間科学部　総合子ども学科
本荘　里菜

教えることが子どものためになるとは限らない。これを実感できたことが、教育実習における私の一番の収穫です。たくさんの先生方に支えていただきながら、もう一度行きたい、と強く思える実習期間を過ごすことができました。
運動会の練習において、子どもたちが自分の並ぶ位置を把握しておくことはとても重要で、覚えておかなければならないことです。私なら、子どもたちが忘れてしまったときのために、子どもたち一人一人の場所をメモしておき、「忘れた」といった子がいればすぐに教えてあげると思います。そのようにすることも時には大切なのかもしれません。しかし、それによって「場所は自分で覚えておかなければならない」と自覚する時期が遅くなってしまうことに気づきました。児童の発達段階や状況によっても異なりますが、あくまで教師のメモは個に応じて使用するものである、という考えを持っておくと、児童の主体性や自主性を育てることができるのではないかと思いました。
授業では、国語の「お手紙」１単元を主にさせていただきました。最初はとても緊張して話すことだけで精一杯でしたが、書くときと話すとき、聞くときの使い分けから、発問の仕方、授業の構成まで、本当にたくさんのことを教えていただき、学ぶことができました。また、授業の回数を重ねるごとに、子どもたちの多種多様な発想や考えを知ることが楽しみになり、授業をすることがますます楽しくなりました。最も大きな課題は、児童の思考を深めるための手立てを考え、技術を身につけることです。手立てについては、発問の言葉を精選すること、子どもの発言に対する問い返しを行うこと、短い言葉で的確に説明することの３つが挙げられます。中でも私は、短い言葉で的確に説明することに難しさを感じました。手順を伝える際には、どうしても口数が多くなってしまいます。黒板に流れを書いていたのでそれに助けられましたが、１つずつ順を追って、ポイントを整理しながら伝えていくことが大切だと学びました。
先生方のたくさんの授業を見せていただいて、子どもたちがいきいきと楽しんで授業を受けていると感じました。それは、先生方が子どもたちのどんな意見や考え方でも認め、それに合わせて授業を展開しているからだと思いました。児童が発言をするときには、しっかりと児童の方を向き、頷いたり共感したりしながら聞かれていました。基本的なことですが、とても大切なことだと思います。発問に対して求めている答えと違っても、決して否定することなく、他の児童に投げかけてみたり、意見の違いを考えさせてみたりと、児童の発言を生かしてより深く考えられるような工夫がされていました。私も、子どもと子どもをつなぐ授業ができるようになりたいです。
学級という単位ではなく、学年、学校の単位で全体を見てみると、先生方のチームプレーが非常に重要であることを知りました。生徒指導に力を入れている先生、ICT の活用が得意な先生、学習法について学ばれている先生、道徳教育を研究されている先生など、先生によって興味や関心、得意分野は異なります。だからこそ、お互いが伝えあったり、助け合ったりしながら、協力して子どもたちのためによりよい学校を目

指されているのだと感じました。私も、実習でのたくさんの学びを生かして大学でそれを深め、自分の強みを見つけて、立派な教師になりたいです。

最後に、これから実習を体験するみなさんへ。自分の中でルールを作るときっとうまくいくと思います。私は、見せてもらった授業１時間につき１つは質問を考える、質問するときは自分の考えを持っておく、自分がやってみたいことは先生に伝える、の３つを心がけていました。特に、見せてもらった授業の質問を考えることはおすすめです。見せてもらう授業がある前日に挨拶に行き(指導教諭ではない場合)、放課後にお礼と質問をしに行くと、学べる量が多くなることに加えて、たくさんの先生と話す時間が増えます。関わる機会を増やすことで気軽に話せる先生が増えて、職員室が幸せな場所に思えるようになります。実習生として受け身にならず、自分が精一杯楽しめるような環境を自分で作ってみてください。実りの多い実習になるよう、応援しています。

合格体験記

人間科学部 総合子ども学科
佐々木 萌音

私は4月から、西宮市の認定こども園に保育教諭として就職します。就職する園を決めたきっかけや、採用試験について述べたいと思います。

私は3年生の秋頃から各地で開催される保育フェアに参加するようになりました。たくさんの園からお話を伺ったり、園見学をさせていただく中で、保育内容など優先したい事項について自分なりの軸ができてきたように思います。

就職することになったこども園と出会ったのは、3年生の冬に参加した保育フェアでのことでした。説明をしてくださった職員さんや園長がとても優しく、話しやすかったことが今でも印象に残っています。更に園の環境や保育についても魅力的で興味を持ち、その場で園見学を申し込みました。園見学は緊張しましたが、園内の明るい雰囲気や元気に話しかけてくれる子どもたち、どんな質問にも丁寧に説明してくださる園長のおかげでとても楽しい時間となりました。

その後いくつかの保育園を見学させていただきましたが、ずっとこのこども園のことが頭に残っており、普段の保育の様子を体感したいという思いからボランティアをお願いすることにしました。

突然のお願いにも関わらず快く受け入れてくださりとても嬉しかったです。実際に体験することで、保育教諭の方々の子どもへの接し方や保育の展開を間近に感じ、ここで働きたいという気持ちが強くなりました。また、ボランティアという身にも関わらず、優しく教えてくださる雰囲気の良さに惹かれ、このこども園の採用試験を受けることに決めました。

就職したい園が決まったものの、次に大変だったのは提出書類の一つであった自己紹介書です。自己紹介書とは、履歴書とは別にA4一枚で自分を表現するというものです。フォーマットや項目も決まっておらず、何を書いていいか戸惑いました。

しかし、大学4年間を思い返してみると、たくさんのことに取り組んできたことが思い出されました。総合子どもカーニバルで脚本を担当したり、ゼミの活動で作成した冊子の表紙イラストを担当したこともありました。また、必修ではない授業でも気になる授業は受けるなど、入学前は視野にも入っていなかった小学校教諭免許の取得にも挑戦しました。このように、これまでやってきたことを振り返ると、それぞれの活動で自分がやってきたことから自分のことが段々見えてくるようになりました。すると自己紹介書に書きたいことも自然と浮かんできました。また、脚本を担当した経験から、伝わりやすい文章を意識し、冊子の表紙イラストの経験から、イラストを交えた、私ならではの読みやすい書類を作成することができました。

面接はこの自己紹介書を元に進んでいきましたが、自分で考えた書類からの質問なので、自信をもって答えることができました。面接で感じたことは、私がこれまでにやってきたことが積み重なり、自分の力となったものが今発揮されているのだなということです。大変なこともあったけれど、それも全て大切な自分の力になっているのだと気付くことができました。

私が4年間の大学生活や就職活動を通して学んだことは、挑戦することの大切さで

す。やってみたい、知りたい等興味を持ったことはとりあえずやってみる。すると、その時は例えあまり上手くいかなかったことであっても、何かしらは自分の力として蓄積されており、後にあらぬ方向で自分の味方になってくれるのだと思います。
就職を間近に控えた今、不安な気持ちでいっぱいです。しかし、これまで自分がやってきたことはきっと役に立つし、更に新しいことをたくさん学べるチャンスだと思って、何事にも前向きに取り組んでいきたいです。

合格体験記

人間科学部　総合子ども学科
佐藤　碧

私は、この春から茨木市の幼保連携型認定こども園に就職します。私の就職園は、園児数約 200 名、職員数約 40 名の大規模のこども園ですが、私はもともと私立の小規模保育園に就職したいと考えていました。小規模保育園を考えていた理由は２つあります。1 つ目は実習で 0 歳児クラスを担当して、乳児保育の大変さと共に乳児保育の楽しさを実感したため保育園に就職したいと思いました。2 つ目は、「子ども一人一人に寄り添った保育」をしたいという思いがあり、小規模であれば実現しやすいのではと考えたからです。

では、なぜ大規模のこども園を就職先として選んだのか？その経緯についてお話ししたいと思います。

私が就職活動を開始したのは 4 月でした。教職支援課やコモンルームの前に貼ってあった就活フェアのポスターが目に入り気になったため、友達を誘って参加しました。たくさんの園が参加していたので、自宅から近い園や気になる園を中心に時間いっぱいまで説明を聞いて回り、説明を聞いた園ほとんどすべてにその場で園見学を申し込みました。その結果、約 6 法人、10 園以上の園に見学に行きました。たくさんの園を見れば見るほど、「ここもいい園だな」と迷ってしまったり、「ここがちょっと…」と欲が出てしまったり、どの園がどんな感じだったか混乱してしまったり余計に迷いました。園見学をするのは大切だけど、し過ぎも良くないなと感じたので、皆さんには気を付けていただきたいです。

園見学をしていく内に、いろんな園の先生方のお話を聞いて「大規模だと複数担任を採用していたりフリーの先生が多かったりするので、小規模じゃなくても子ども一人一人に寄り添った保育が出来ること」を知って、大規模の園も視野に入れるようにしました。そんな時に就職園に出会いました。

就職園では、遊びを中心としている保育を行いながら、幼児では、体育指導や音楽指導、スイミング指導、ECC 指導などたくさんの活動を経験できる機会を設けることで、その活動を通して自分の得意なものを見つけてのばしてほしいという理念がありました。また、乳児では育児担当制を採用、幼児では複数担任を採用していました。

私は、4 年間の学びの中で「遊びを中心とした保育」に興味を持つようになり、「子ども一人一人に寄り添った保育」をしたいと考えていたため、この園でなら自分が望んでいた保育が出来ると考えて、採用試験を受けることを決意しました。

この園の採用試験は、面接・実技（ピアノ）・筆記試験でしたが、主に面接を重視していたため、キャリアセンターで志望動機など面接の際によく聞かれる質問についての回答の添削をしてもらったり、面接練習をしてもらったり、友達と面接練習をし合ったりしました。

採用試験の日時が決まってからすごく緊張していましたが、キャリアセンターの先生やゼミの先生から「人柄を見るための面接が多いからいつも通りの自分で行けば大丈夫」や「私を落とすなんて損をしているという感じで自信を持っていきなさい」と励ましてくださって、また周りの友達からも「絶対受かる。大丈夫。」と励ましの言葉

をもらって、それだけですごく自信が持てました。
　この経験から、みんなで励まし合いながら、自分を信じて、最後に自分の力を出し切ったと思えるように努力を続ければ、どんなことでも乗り越えられるのではないかと実感しました。皆さんも就職活動は特に迷って、悩んで、不安に思うことが多いと思いますが、友達や先生を頼って、「自分なら大丈夫」という強い気持ちをもって頑張ってください。皆さんが、それぞれ自分にあった園に出会えることを願っています。この体験記が少しでも皆さんの参考になればと思います。最後まで読んでいただきありがとうございました。

合格体験記

人間科学部　総合子ども学科
池尻　実生

私は、春から神戸市の幼稚園型の認定こども園に就職します。公立の教職採用試験を受けた訳でも、それに向けて勉強した訳でもありませんが、私が就職活動をして感じたことと、どのように認定こども園の採用試験に向けて取り組んだのかを紹介させて頂きます。

就職活動は３年生からインターネットを利用して気になる園を探し、１月から就職フェアに参加するなど本格的に行動し始めました。インターネットでは文字だけで園の特色や園の雰囲気が分からないですが、就職フェアでは実際の園の先生と特色や園生活について話す事が出来るため、園の雰囲気が分かりやすかったです。

本格的に就職活動を始めてからも、幼稚園で働くのか、保育園で働くのかが決まらず、様々な園の話を聞く中で”絶対保育園”と決めるのではなく、幼稚園・保育園双方の魅力から自分に合う園にしようと感じるようになりました。

様々な特色の園がある中で私の園選びのポイントは、子どもや先生など園の雰囲気、園の特色は何か、食育はしているのかという３つの点から選びました。実際に気になった園には連絡し、いくつか園見学に行きました。様々な園を見学して私は“自分が働いている姿が想像できる園”を就職園に決めました。

私の就職園の採用試験では、①ピアノまたは歌　②絵本読み聞かせ　③常識問題　④感想　⑤面接　の５つの試験がありました。ピアノまたは歌の試験内容だったこともあり、私は印象に残るよう弾き歌いを行いました。また、緊張したら練習の時のように弾けなくなるので、目をつぶって弾けるようにしたり、弾いているところを録画して見られているという事に慣れるように工夫して練習しました。面接練習では、コモンルームにあった保育士就職対策のような本を利用して、ある程度どんな事を聞かれるのかなどを想像して答えを考えました。また、自分の強みは何かを考え、自己ＰＲに繋げたり、面接に活かしたりなど、印象に残るようにしました。

私の就職園の採用人数は、２～３人でした。実習やボランティア、バイトをその園でした事のある人の方が採用される可能性が高い中で、私はどのように園の人に印象を残すかを考えました。そこで、就職フェアに学校の制服で行き、採用試験を受けると決めた園には、もう一度別の日に行っている就職フェアに参加してその園のブースを再度訪れ、顔を覚えて貰えるようにしました。

どのような基準で園選びをしたら良いのか、採用試験でも戸惑ったり緊張したりすると思います。そんな時は自分の選んだ道を信じ、働いている姿を想像してみると楽しみに感じられると思います。

最後になりましたが、私の合格体験記を読んで、少しでも参考になれば幸いです。

合格体験記

人間科学部　総合子ども学科
秋山　祐香

教育実習が終わった大学３年生の秋、私は「小学校の教員になる！」と決心しました。
そして、この春から大阪市で小学校の教員になります。改めて教員採用試験を振り返るとたくさんの方々に支えていただき、応援していただいた１年間だったと感じます。また、この体験記を読んでくださっている皆さんに伝えたいこととして、何があっても最後まで諦めずに努力し、挑戦したからこそ、得られるものが必ずあります。

私は採用試験を通して、大切な二人の仲間と出逢いました。長い受験生活を乗り越えることができたのも、「一緒に頑張ろう！」「絶対合格しよう！」と背中を押し続けてくれる仲間がいたからです。

試験対策について、まず私たちは集中して勉強できる環境を整えました。教職支援課や学生生活課、教務課の方々にお願いをして、毎日教室を使わせていただき、朝から夜まで大学で過ごしました。問題集を繰り返し解き、分からない問題は直ぐに教え合う。間違えた問題には付箋を貼り『間違いノート』に記録する。ご飯を食べながら…帰り道を歩きながら…誰かが眠たくなったら…など少しでも時間があれば、それぞれの『間違いノート』から問題を出し合って、クイズ感覚で覚えなおす。このようにして仲間と協力しながら、励まし合いながら、息抜きで楽しみながら勉強を進めていきました。

春休み頃からは先生方による勉強会での面接練習が始まりました。初めての面接練習は自分の長所や志望理由さえも答えられず、焦りと不安で涙が止まりませんでした。ですが毎日何度も何度も練習を繰り返していると少しずつ自分の考えや思いを伝えられるようになり「合格したい！」という気持ちも一層強くなりました。また私は先生方だけではなくボランティア先の校長先生や東京アカデミー、友達や家族、たくさんの方々に面接練習をしていただき助言をいただきました。面接練習は数を重ねた分だけ絶対に力がつきます。
コロナ禍で登学禁止になってしまった時も、保育実習で勉強会に参加できなかった時も、先生方や友達にお願いをしてオンラインでの面接練習を毎日欠かさないようにしました。そのおかげで試験本番は「私なら絶対に大丈夫！」と自信をもち臨むことができました。

これから教員採用試験を受ける皆さん、試験までは長いようで、あっという間です。限られた時間を無駄にしないように計画を立て、心が折れないように息抜きをしながら、夢に向かって頑張ってください。
最後になりましたが、受験生活を支えてくれた家族や仲間、指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。これからは小学校教員として、努力し成長し続けます。

４-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

高等学校教育実習　感想文

文学部　日本語日本文化学科
東　亜美

私が教育実習に行かせていただいたのは、母校の商業高校でした。部活動にとても力を入れている学校で、高校生のうちから資格取得が出来る文武両道の学校です。期間は三週間、９月１３日から１０月５日までででした。本来、教育実習生の受け入れは６月あたりが多いのですが、母校は例年９月から１０月に受け入れをすることになっていました。大学の友人たちと同じ時期に実習をしていないため、実習中の悩みや不安を相談しあうことは出来ませんでしたが、実習を終えた友人たちからのアドバイスや感想を聞いてモチベーションをあげることが出来ました。また、友人は教育実習直後や真っただ中に教員採用試験があったため、両立するのがとても大変そうでした。その分、秋に教育実習だった私は教員採用試験にとても集中することが出来ました。

私が高校生だった時から、教育実習生は商業科や情報科、そして部活動に力を入れていることから体育科の教員を目指す学生ばかりであったため、実習前のあいさつに伺った際には「国語科の教育実習生の受け入れは初めてだ。」と言われました。商業科高校は普通科高校に比べて国語科の授業は少ないのですが、その中でも、全部で高校二年生３クラス１５コマの授業を担当させていただきました。一クラス５回程度で、同じ大学の友人と比べれば授業回数は少ないほうでした。ＨＲ担当クラスは二年六組で、授業実習をさせていただいたのは二年一組、五組、六組でした。

実際の教育現場を体感して、「授業内での生徒の気づきを拾って学びに続ける難しさ」を知りました。一番初めの授業実習は大きな声が出せずに一番後ろの席まで声が届きませんでした。自分では声を出しているつもりでも、隣のクラスの教員の声にかき消されてしまい、後ろの生徒は聞き取れていませんでした。生徒の表情から様子を読み取ることも大切だと学びました。また、生徒の些細な気づきや疑問をうまく拾っていくことが難しく、担当教員のように何気ない発言を上手に拾いながら生徒の視点も取り入れて内容とリンクさせていく授業を行うことが出来ませんでした。そのとき、私にとっては同じ内容の授業をクラスごとに行うため、一クラス終えてうまくいかなかったところがあれば授業の修正を行うことが出来るけれども、生徒にとってはその授業は一度しかないため、一度の授業で理解できなかったとしても同じ授業を再び行うことはできないことに気づきました。それからは同じ範囲の授業でもクラスによって理解度や発表の頻度も異なるため、各クラスの雰囲気に合わせて伝え方を変えていくようにしました。毎晩遅くまで担当教員に指導案や授業内容、立ち振る舞いについてアドバイスをいただき、何度も修正しました。評論では具体例の内容を変えて説明することで、生徒により身近なものに例えて考えさせ、小説では登場人物の心情を追って考えていくために、まず初めに登場人物を整理し、相関図を作成することで関係性を理解させるようにしました。また、生徒自身に置き換えて考えさせることで、より登場人物の行動や発言の意図を考えられるようになっていったと思います。教育実習生自身の経験をもとに話していく（少し架空の話でも設定をしっかり作って

おく）と、生徒も興味を持って授業に参加してくれていました。
　最後の研究授業では２０人弱の先生方が見に来てくださり、国語科の先生方や他教科の先生方の多くから「笑顔で授業を行い、立ち振る舞いや声が堂々としていてよかった。」や「とても面白くて惹かれる授業だった。」と言っていただきました。改善点も多く見つけましたが、自分がイメージしていたような授業が出来たのでとてもうれしかったです。
　HR も初めは緊張しましたが、回数を重ねることにうまく話せるようになっていきました。授業はもちろん HR で連絡事項を伝えるためにも生徒とのコミュニケーションが必須だと思い、三週間という短い期間で生徒との信頼関係を構築していくため、授業外で生徒と触れ合う機会を自分で作りました。ただ、生徒との距離を縮めることは大切ですが、一定の距離感を保つことも大切にしました。休み時間や教室移動の際は、できるだけ HR 担当クラスに顔を出すようにし、二年生の階を通るようにしました。生徒とすれ違うときに必ずあいさつをして、笑顔で廊下を歩きました。HR 担当クラスの生徒とは一人一人と一日一回は話したり目を合わせたりときっかけを作るようにしていたため、とても仲良くなることが出来ました。各クラスの雰囲気も授業内外で変化することも踏まえて授業を行うことが出来たので、授業実習の内容に時間を割くことだけでなく、生徒とのコミュニケーションを大切にすることも必要だと改めて感じました。また、放課後の文化祭準備も積極的に手伝っていたため、生徒と多く話すことができ、将来の夢を教えてくれた生徒や進路相談や恋愛相談をしてくれた生徒、短い間でも自分から積極的にコミュニケーションを取りに行くことで最終日には泣いてくれた生徒も多く、とてもうれしかったです。
　最後に、教育実習は実習校に受け入れてもらっているという気持ちを持ちながら、積極的に動いていくことが大事だと実感しました。すべて教育実習生の今しかできないと思いながら挑戦する姿勢で、授業見学はできるだけ多く行い、他教科の授業見学も行うこと、そしてほかの実習生の授業見学も行ったほうがいいと思いました。自分の担当教科の授業見学は授業の進め方や単元のキーワード、授業の組み立てなど参考になる部分が多いと思いますが、他教科の授業にも、間の取り方や抑揚のつけ方、時間配分やワークの取り組ませ方など指導方法も多く学ぶことが出来るので、他教科の授業見学もとても大切だと感じました。ほかの実習生の授業見学も行うことで、自分の写し鏡としてとらえ、気づいたところは伝え合うとよりよい授業を作っていくことが出来ると思います。また、事前準備をしっかりしていったほうが良いと思います。私の場合、授業実習範囲について事前指導の際に少し教えてもらいましたが、トラブルがあり実習開始日前日に変更となったため、急遽教材研究をして指導案を作ることとなりました。事前に単元がわかるのでしっかり教材研究をし、おおまかな授業内容と指導案を作っておくと、実習中の睡眠時間も確保できて実習にも集中できるので事前にしておいたほうがいいと思いました。
教育実習では多くのことを学び、大きな達成感を得ることが出来ました。春から教壇に立ちますが、教育実習の経験を活かして生徒とのコミュニケーションを大切にし、教員として頑張ります。

中学校教育実習　感想文

文学部日本語日本文化学科
西岡　紗希

教育実習で一番学んだことは、「失敗を恐れないこと」です。最初のうちは失敗したくない、完璧に先生という立場を全うしなければならないという思いが強すぎてある失敗を犯しました。

私は３年１組のクラスを担当させて頂き、そこでとある男子生徒と出会いました。授業見学の際に机間巡視もしていましたが、その男子生徒は授業中机に伏していたり、教科書が出ていなかったりと授業に乗り気ではない様子が続いていました。私はただ怠けているだけであると判断し、そのような生徒を前に注意ばかりしてしまいました。私＝面倒な先生という印象を与えてしまい、自分が思い描いていた関係性を築くことが出来ないことに焦りや戸惑いが生じていました。

指導して頂いた１組担任の先生からは、注意はしなくていいというご指導を頂き、その時に自分は生徒の気持ちに寄り添えていないことに気づきました。生徒との関わり方に失敗していたのです。

そこからはたわいのない話をしに行ったり、褒めることを意識したりして男子生徒との関係を修復しました。他の生徒にもそのことを意識して関わるようにすると、お互いが自然と笑顔になっていることが多くありました。生徒との会話はとても楽しかったです。

最終日、担当したクラスや関わった生徒から色紙や手紙を頂きました。「先生とたくさんお話ができて楽しかった、嬉しかった」というコメントが多く、嬉しかったです。話せた内容は私の経験や失敗談ばかりでしたが、それでも話せてよかったと思っています。

教育実習を終えて一週間後、実習記録とともに、最終日に渡せなかったクラスメイト１人１人に宛てて書いた手紙を担任の先生に預けました。短い時間でしたがその生徒たちと共に学び、成長できたことに感謝しました。

後日中学校からのご厚意で体育大会に招待して頂き、約４か月ぶりに３年１組のクラスに訪れました。久々で顔も忘れられているのではと少し緊張して向かいましたが、生徒たちは喜んで歓迎してくれました。その時に男子生徒が机の中から私が渡した手紙を取り出して「先生からの手紙大事にしてるで！」とにこやかに話しかけてくれた姿をみて、泣きそうになりました。忘れられている訳でもなく、嫌われてもいない。短い間でも生徒との絆がちゃんと出来ていたのだと実感して、嬉しくなりました。

この出来事をきっかけに、失敗は恐れるものではなく、様々なことを学べるチャンスであると前向きに捉えられるようになりました。また、生徒と関わる際には気持ちを汲み取って寄り添うことも必要であると、現場を通じて学ぶことが出来ました。

この実習を通して、生徒と共に学び、成長できたと感じています。この実習での出来事を活かして、生徒の心に寄り添い、挑戦を応援できる教員になりたいと考えています。

合格体験記

文学部　英語文化学科
照屋　菜々

私は、大阪府教員採用試験に合格しました。私の大学生活、教育実習、教員採用試験について述べたいと思います

1. 大学生活について

私が大学生活の中で一番頑張ったことは、ラクロス部での活動です。ラクロス部には、1回生の後期に入部しました。入部のきっかけは、高校生までずっと部活動に入っていて長期休みもほとんど練習に参加していたので、バイトや友達と遊ぶだけでは少し物足りなさを感じ、何か夢中になれるものがほしいと思ったのがきっかけです。1.2 回生は、週 5 日の朝 7 時半から 10 時頃まで練習していました。教職課程を履修していると、１限や５限に授業があるので早退をしないといけなかったり、空きコマができてしまったりしていましたが、早退の日は自主練習をしたり、空きコマの時間は課題を行うなど時間をうまく活用するようにしていました。新型コロナウイルスの影響で３回生からは、思うように部活動を行うことができなかったのですが、チームで工夫しオンラインでミーティングやトレーニング行いました。大学生でも部活に入部したことで、充実した大学生活を行うことができました。

2. 教育実習について

私は、中学校に３週間教育実習に行きました。実習では１年生を担当し、４クラスで授業を行いました。授業は、実習の１週目から担当させて頂きました。初めての授業は、少し緊張しましたが生徒たちの素直な反応がとても嬉しかったです。放課後に初めて授業を行なったクラスの担任の先生から、生徒が「照屋先生の授業が楽しかった。」と言っていたと教えて頂いた時は、とても嬉しかったです。２週目からは、本格的に授業を担当することになり、毎日授業準備に追われていました。指導案やプリント作りは大変でしたが、授業で使用した際に生徒が喜んでくれるととても嬉しかったです。私が教育実習で一番大切にしていたことは、生徒と一緒に過ごすことです。休み時間、昼休み、放課後など授業準備をしたい気持ちはありましたが、生徒とたくさん一緒にいることで早く生徒と仲良くなることができました。研究授業は多くの先生が見にきて下さったので緊張しましたが、生徒たちがいつもより元気に参加してくれてスムーズに授業を行うことができました。先生方からも褒めて頂いたので、生徒といい関係を作ることはとても大切だと感じました。教育自習は、大変な部分もありましたがとても楽しかったです。

3. 教員採用試験について

私は３回生の 12 月頃から４回生の８月まで就職活動を行なっていました。教師になることには少し興味がありましたが、一つには絞ることが出来ていませんでした。教育実習を終えてから、教師になりたいという思いが少し強くなりました。大阪府の教員採用試験の一次試験は、教職教養と SPI のような問題でした。もともと数学は得意で、SPI の勉強は就職活動の中で行なっていたので一次試験を乗り切ることが出来ました。二次試験は、個人面接

を行いました。この面接では、志望動機や自己 PR の他に私自身のこれまでの経験についての質問がありました。二次試験終了後に少し手応えを感じたので、本格的に三次試験の準備を始めました。まず三次試験は、専門教科の試験があるので英語の勉強を行いました。スピーキングのテストもあるので、先生に協力して頂き対策を行いました。そして別日に、面接と模擬授業の試験が行われました。模擬授業の練習は、とにかく色々な人に見てもらい沢山練習を行いました。試験当日はとても緊張しましたが、練習の回数が自信となり落ち着いて行うことが出来ました。

4. 最後に

私が言えることは、「なんとかなる！」ということです。４回生になるまで自分が教師になるとは思っていませんでした。就職活動を行い沢山の企業の説明会に参加し、面接を受けました。そして教育実習を行う中で、自分に合っているかもと思える場面に何度か出会い「これかも！」と思えるようになりました。教育自習は、短い時間ですがとても濃い時間を過ごすことが出来ます。自分から積極的に行動することが大切です。真剣に頑張っていると、周りの先生や生徒も助けてくれます。あまり心配せず楽しんで下さい。

大学生活の４年間は自分次第で、大きく変わります。私はラクロス部に入部し、多くの仲間と出会うことができ充実した４年間を過ごすことができました。海外旅行に行ったことも私の中でとてもいい経験になっています。やりたいことは挑戦し、色々な経験をすることがとても大切だと思います。試験勉強はもちろん大切ですが、大学生活でしかできないこともあると思います。色々なことに挑戦し、楽しんで、力を入れるべきところは自分の力を出し切って頑張ってください。

４-3. 各種体験記（医療栄養学科-栄養教諭課程）

栄養教育実習　感想文

医療栄養学部　医療栄養学科
中谷　まりな

学校栄養教育実習を通して、大きく２つのことを実感しました。相手に伝えることの難しさとこれからの未来を担う児童に対しての教育の重要性とやりがいです。

私は母校の小学２年生のクラスで１週間実習をさせていただきました。事前に、食育の授業を 2 年生にすること、そのテーマが三食食品群であることなどを知らされており、授業の計画をある程度立てたうえで、実習に臨みました。しかし、実習初日の放課後に行った打ち合わせの時点で、既にその計画は相応しくないと実感していました。私が想像していた小学２年生のクラスの雰囲気や空気感、個々の集中力や興味などは、実際とは全く違っていたからです。大学でも模擬授業を行うなど学習していましたが、実際に目の前に相手がいることと想像することは全くの別物でした。まず、大切だと思ったのは、視覚的に興味を引くことと詰め込まないことです。集中して取り組める時間は年齢が下がれば下がるほど短くなると思います。だからこそ、飽きさせないことが大切だと思いました。はじめは多くのことを学んでほしいと思い、内容をいっぱい詰めていましたが、学校、特に小学校では指導するよりも、学び合うという感覚が近く、要点を押さえ、残りは出た意見を発表するなどに使うことが必要だと感じました。

１週間の期間の中で、2 年生 3 クラスに授業を行いましたが、同じ学年でもクラスが違えば、全く異なるということを実感しました。ただ共通する点は、いつもとは違う先生と授業にすごく興味を持ってくれるということです。小学校は毎授業担任が担当するため、違う人が授業をするだけでも、とてもワクワクしているというのを目に見えて感じました。これは、栄養教諭の担任とは違う視点からのアプローチだからこその反応であると思いました。また、担当クラスの授業は特にスムーズに進行することができたことから、栄養教諭は担任ではなくとも、児童と積極的に関わり、信頼関係を築くことが大切だと感じました。食育は、生きていく上で大切な知識であり、それを早い段階から伝えていくことは、とても重要であり、同時にやりがいであると思いました。

実習期間中、授業に入らせていただく中で、積極的に声をかけてくる児童だけに気を取られず、自分からはなかなか声をかけられない児童にしっかりと目を向けて、声をかける様子が何度も見られました。私は、どうしても積極的な児童に偏ってしまいがちでしたが、その様子を見て、自分からも声をかけるようにすると、自分から言えないだけで困っている児童や話したいと思ってくれている児童がいることに気づくことができました。実際に授業をする上でも、偏らないように意識して、クラス全体に目を向けようという意識があることは本当に大切だと思いました。

実習を通して、自分が伝えたい相手をよく見て、どうすれば伝わるのか、どうすれば興味を持ってもらえるのかを考え、時間内に実践することの難しさを学びました。理想と現実をすり合わせ、より良い形で児童に授業を行うことができるよう、教員になっても学び続け、考え続けることが必要だと感じました。実際に指導にあたってくださった先生方も、親身にアドバイスをしてくださったり、質問に答えてくださったりと、教育

現場がよりよいものになるよう、最善を尽くしてくださっていました。今回、新型コロナウイルスによる大変な状況のなか実習に行くことができ、実際に児童と関わり、自分の目で見られたこと、先生方に直接指導していただけたことは、今後の糧になる貴重な経験だったと思います。今回の学びを生かすことができるよう、これからも学ぶ姿勢を忘れずに、努力したいと思いました。

栄養教育実習　感想文

医療栄養学部　医療栄養学科
永田　彩子

今回、２０２１年９月６日から１０日までの５日間、神戸市立だいち小学校にて実習させて頂いた。５日間という短い時間であったが、栄養教諭としての職務や子供たちとの関わりについてだけでなく、栄養のプロとして、教育者としての使命や覚悟も学ぶことができた。

神戸市立だいち小学校は児童数７８５名、２７学級の小学校であり、給食の経営形態は自校給食で調理は企業委託している。栄養教諭は一名配置されている。給食の献立作成は、神戸市の栄養教諭が当番制で検討している。栄養教諭は給食の管理、衛生管理、児童への食育、アレルギー児童の対応、給食委員会の運営、神戸市の栄養教諭の会議や研修への参加などの業務を行っている。実習期間中は、担当させていただいた３年３組で過ごしながら授業時間や時間外の教員と子供たちの関わりや教員の食育に関する働きかけを観察したり、栄養教諭の職務の一部や給食の調理作業を見学させていただいたりなど、多くのことを経験させていただいた。

実習期間中、私が栄養教諭として最も重要である力は、『積極的なコミュニケーション』、『学校全体の食育に対する意識づけ』、『将来につながる食育を行うこと』であると感じた。まず、『積極的なコミュニケーション』については、栄養教諭は他の職種と比較しても特に重要であると考える。栄養教諭は担任を持たず日々の授業を担当することもないため、栄養教諭が児童らと関わるのは、給食時の徘徊、食育の授業、給食委員会など限られている。実際、栄養教諭が自分の学校にいることも知らない児童も少なくはない。栄養教諭がいるということを認識させるためにコミュニケーションの取るのではなく、コミュニケーションを取りながら児童らをしっかり観察し、食事や栄養に関する知識、関心などを把握する必要がある。これらは学校や学年、個人によって異なるので、食育を行う対象に合わせた分析が求められる。栄養教諭は多くても各校に１名しか配置されていないので、理想的な食育を継続することには限りがある。特に子供の時の食育は本人の食生活や将来の食選択に直結するので、日々の学校生活での指導が重要である。それを充実させるために必要なことが『学校全体の食育に対する意識づけ』である。栄養教諭が食育の要として方針を決定し、幹部と相談しながら食育の柱を作り、学校全体に示す。教員によって食育に対する意識の程度は異なるので、必要に応じて研修会を行ったり、資料を提供したりするなどして、教員全体の食育の意識を高める。子供たちと最も関わる時間が長いのは担任であるので、食に対してどのような知識を持ってほしいのか、そのためにどのような働きかけをしたらよいのかを共有し、児童らへの日々の指導に繋げる。今日、私たちの周りにはたくさんの食品や食文化、食事や栄養に関する情報であふれている。心身の健康のために必要なものを取捨選択し、よりよい食生活を送ることが将来の生活習慣病の予防や健康寿命の延伸につながる。先に述べたように、子供の時の食育は本人の食生活や将来の食選択に直結するため、『将来につながる食育を行うこと』も大変重要であると考える。単に食品や食文化に関する知識を一方的に教えるのではなく、健康的で環境にも配慮した食生活を送るためにはどうしたらよいのかを児童と一緒に考える、段階的な

教育を行う必要があると考える。以上の三点が、今回の栄養教育実習で私が栄養教諭として最も重要であると感じた力である。

今回の実習で、神戸市立だいち小学校の校長である廣谷徹先生より、「食育を子供たちに伝えるということは、命の教育をしているということです」というお言葉をいただいた。栄養教諭は、命の教育を行う一員として、児童らの卒業後や大人になってからの健康を担う存在であるという自覚をもって職務に当たる必要があるということを実感した。そして、明るく、相手を思いやることができる３年３組の３５名の児童の皆さんに、素直さや一つの目標に向かって努力することの尊さを改めて教えてもらった一週間だった。

今回、お忙しい中ご指導いただいた校長の廣瀬徹先生、栄養教諭の武田博子先生を始めとする神戸市立だいち小学校の先生方と一週間たくさんの元気と笑顔をくれただいち小学校の児童の皆さんに心より感謝いたします。

４-3. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己課題を考える
～4 年間の教職科目・養護教諭専門科目・養護実習・教職実践演習から振り返って～

看護リハビリテーション学部　看護学科
舛賀　鈴夏

私が目指す養護教諭像は、児童・生徒にとって話やすく、看護学科で学んだ知識を活かし、身体的・精神的なことを始め、子どもたちが抱えている悩みに対して臨機応変に対応でき、安心感を与えることができる存在である。学校には、様々な事情や悩みを抱えている子どもたちがいる。そのような子どもたちに寄り添い、安心して悩みを打ち明けられるような養護教諭になりたい。また、中には、保健室を怖いと思っている子どもたちもいると考える。保健室は怖い場所ではなく、安心できる場所であるということを知ってもらえるような存在でありたい。

上記のような養護教諭になるために、4 年間を通して、様々な学習、教職実践演習の経験から今後の自己課題を以下に述べる。

養護教諭の役割は、怪我や病気の対応、カウンセリング、保健指導など、多岐にわたる。その中で、養護教諭は担任などの学校の教職員と連携し、保健室経営や保健指導を行う。教職員との連携では、専門職であるからわかる見解や提案を大切に報告・連絡・相談を行っていくことが大切でることを学んだ。子どもたちの日常的な様子や、健康診断の結果などから、「あれ？」と思うことについて、積極的に教職員と連携し、問題解決に取り組むことが大切であり、そのためには子どもたち一人ひとりについて理解、子どもたちを“みる”ということが大切であるということを実習や実践演習を通して学んだ。

また、養護教諭もひとりの教員であることから、子どもたちに積極的に指導を行っていくことが大切であることを学んだ。例えば、保健室来室時である。子どもたちが怪我や体調不良で来室した際に手当をするだけでなく、保健室で過ごした時間が子どもたちにとって少しでも学びの時間になるよう関わっていくことが大切である。傷の洗い方、鼻血の止め方など、子どもたちが自分自身で行うことができれば、それは大きな成長である。保健室の来室によって子どもたちが新たな知識を得られるような声掛けが大切であると考える。私が実際に保健室で対応した際は、その場で対応することに追われ、指導やアドバイスが十分にできていなかった。自分自身に追われていることで、学習の以前に不安を与えていてしまったかもしれない。子どもたちにとって勉強になったと思える時間にするにはまず、不安な気持ちを取り除くことが大切なのではないかと自身の反省から考える。

私が実習に行った時期は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、子どもたちにとっても様々な制限がある中での学校生活であった。制限がある中でも、子どもたちが安心して学習できる環境を整え、楽しい学校生活を送ることができるよう養護教諭が中心となり、感染予防対策を講じていかなければならない。マスクの着用、手洗い・うがいの励行、給食の黙食等である。ただ行うだけでなく、正しく行われているのか、長時間のマスクの着用は熱中症のリスクとならないか、子どもたちの生活の様子を見て、判断、

指導していかなければならないと学んだ。

また、アルコール消毒など、普段使い慣れていなかった物では、子どもたちの興味をひき、時には顔に向けてかけてしまう等危険行為をしてしまうというリスクがある。実際に、ポンプ式アルコール消毒の使用の仕方である。教育実習の際に気が付いたが、給食の準備で教員が教室内にいないときには気づくことができないこともある。大事には至らないことであっても、万一、児童の目にアルコール消毒が入ってしまうことも気を配る必要性も実感した。教職員と連携し、周囲を注意深く見ておく大切さについて実感した。

学校に置いてあるものは「おもちゃ」ではないこと、消毒の正しい使い方をしっかり児童に指導し、誤った使い方から起こる危険事項を養護教諭が学校全体にしっかり啓発していかなければならないことを実感として改めて学ぶことができた。

学校現場では、日々、様々なことが起こる。子どもたちの SOS を見逃さないよう、保健室にくる子どもたちだけでなく、学校全体の子どもの様子を日々観察すること、そのためにも、担任からの情報集や、子どもたちとの日々の関わりが大切であるということを学んだ。学校における子どもたちは発達段階が様々であり、一人ひとりの発達段階や個別性に合わせた関わりが必要である。

子どもたちが安心して過ごし、学びを深めることが出来るような保健室を作り、子どもたち一人一人を理解し子どもたちにとって話やすい存在である養護教諭になることができるよう、看護師としての仕事を積みつつ、大学の教職課程で学んだ経験をさらに深めて社会貢献していきたい。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について自己の課題を考える
～4年間の教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から振り返って（特に新型コロナウイルスを経験して）～

看護リハビリテーション学部　看護学科
鎌内　侑奈

私は、兵庫県佐用町にある小学校に教育実習生（養護教諭）として受け入れていただいた。山と川に囲まれた自然豊かな場所であり、全校児童が116名の小規模校であった。保健室来室者が少なかったこともあり、保健室の外に積極的に出て児童たちと過ごす時間を大切にすることを心掛けていた。授業を楽しそうに受けている児童、集中力が続かない児童、外で元気いっぱい遊ぶ児童、給食が苦手な児童など保健室の中にいるだけではわからなかった児童の様子を知ることが出来た。指導教諭は、いつも「普段の児童の様子を知ること」を大切にされていた。それは、保健室対応において、いつもと何か違うという異変に気付くことや今は背中を押すときであるといった判断につながると学んだ。しかし、学校の規模や地域性によって保健室の状況は異なるという事を実習成果発表会を通して学んだ。毎日たくさんの児童が来室し、対応に追われる場合もあると知り、私の目指す「保健室の外に積極的に出ていつもの子ども達の様子を知る」ことは簡単なことではないと感じた。しかし、保健室来室者の傾向を正確に把握して、担任やその他の教員に協力を仰ぐことや日ごろから教職員とコミュニケーションを取り、児童の様子を知ることは可能であると考えた。自分が置かれた状況で何ができるのか、児童生徒の健康安全を守るために何が必要かを常に考え続けることが養護教諭に求められる力の一つであると考える。

また、教育実習後の「教職実践演習」という教職課程の統合授業では、養護教諭として働く上で、各学校の実態を把握することが重要であると気がついた。自分の生まれ育った地域の学校についてしか知らなかったが、他の学生の教育実習経験を聞き、学校がある地域やそこで暮らす方々の生活背景によってそれぞれに異なる課題があると知ることができた。上記で述べた保健室の機能を始め、授業の様子、保健だより、保健指導の内容、新型コロナウイルスの対応などもそれぞれの課題に基づいて考えられていた。例えば、地域性を考慮し、1年生の時から性教育を行っている学校や学力の低下が課題として挙げられる学校では授業中の工夫や保健指導の内容をよりわかりやすく作成するなどの工夫をされていた。このように養護教諭の役割の一つとして、その地域、学校の特有の課題を把握し、それを理解した上で児童生徒や保護者、地域の方と関わる必要があると考える。また、これらを把握するためには、養護教諭一人では難しく、積極的に教職員や教頭、校長に尋ねることや保護者、地域の方とのコミュニケーションを深めることが大切であると学ぶことができた。

さらに、「教職実践演習」では、神戸市教育委員会の指導的立場である田村誠先生から「学校で求められる養護教諭の役割」についてご講演いただく機会に恵まれた。その中で、「アンテナを高くするだけでなく、低いアンテナ、細いアンテナ、太いアンテナを持ち、たくさんのことに気付く必要がある」とお話されていたことが印象的であった。自分の近くに来る子どもだけを見るのではなく、相談に来たくても来ることのできない児童生徒を見逃すなと話されていて、私も大切にしたいことだと、強く感じた。実際に

教育実習でも毎時間の休み時間に駆け寄って来てくれる児童は決まっていて、私から進んで話しかけないと話さない児童もいたことを思い出した。保健室においても保健室を利用している児童生徒ではなく、本当は心に何かを抱えていても保健室に来ることができなかったり、誰にも相談することができなかったりする児童生徒も存在するのではないかと考える。そのため、保健室に来る児童生徒だけでなく、さまざまなアンテナを持ち、本当に支援が必要な児童生徒を見逃さないようにしたいと考える。

4 年間の教職課程を終えた今、私が目指す養護教諭像は「誰にとっても身近な存在である」ことである。これは、児童生徒だけでなく、教職員、保護者、地域の方にとっても身近な存在でありたい。そのためには、上記で述べてきたように「普段の児童生徒の様子を知ること」「学校の実態を把握すること」「教職員、保護者、地域の方々とのコミュニケーションを大切にすること」が必要であると考える。現在の自己の課題としては、このようなことを可能にする経験が少ないことである。実習に行かせていただいたことやその学びを他の学生と共有したことで知識を習得し、色々な視点で考えることが出来たため、次は実践に移し、さらにさまざまなこと挑戦していきたいと考える。社会情勢、生活背景、地域性により児童生徒が抱える課題も多様に変化していくため、その情報をいち早くキャッチし、行動に移すことが出来る養護教諭になりたいと考える。

卒業後、兵庫県養護教諭常勤講師として着任することが決まったので、これから、夢を実現していきたい。

目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己の課題を考える
～4 年間の教科科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習を振り返って～

看護リハビリテーション学部　看護学科
森定　直子

はじめに

これまでの学習を通しての学びを振り返りながら、以下ではまず COVID-19 蔓延の緊急事態宣言期の経験に焦点を当てて述べる。次に養護教諭に求められる力についてと目指す養護教諭像について述べ、最後に今後の課題を述べる。

本文

Ⅰ.COVID-19 蔓延の緊急事態宣言期を経験して

文部科学省は「学校保健とは、学校において、児童生徒等の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と教育」と位置付けている。そして、中央教育審議会答申において、「養護教諭は学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たしており、現代的な健康課題の解決に向けて重要な責務を担っている」と述べられている。このように、学校は児童生徒の安全を守りながら、教育を行う必要がある。COVID-19 蔓延期においても、安全を第一に考えながら教育の機会を確保する必要があった。教育活動を行うために、全教職員と地域の保健所または保健センター、学校三師と共にどのような対策を行うかを考えることが必要であっただろう。そして、児童生徒が対策の必要性を理解し、自らが感染対策を行うことができるように指導することが教職員に求められることである。実際に COVID-19 流行から約 1 年半経過した時期に私は小学校に実習に行ったが、児童は朝の検温を自宅で済ませていたり、保健室内が密にならないように、入室が必要な児童だけが保健室に入るようにしていた。このように、児童生徒の健康の保持増進を教育活動の一環として行うことが必要であり、児童生徒自身が健康保持増進を図ることができるようそれぞれの発達段階に合わせて指導を行うことが養護教諭には求められると考える。

Ⅱ.養護教諭に求められる力

養護教諭に求められる力は、アセスメント力、児童生徒の訴えを受容する姿勢と人間力、児童生徒自身が課題に向き合えるようなその人にあった声掛け・指導をする力、教職員や学校三師、地域住民や地域の関係機関などと連携する力であると私は考える。

1 つ目のアセスメント力については、児童生徒は様々な訴えを持って保健室に来室する。訴えから必要な問診項目を考えたり、その訴えの背景にはどのようなことが関係するかを考えたりして、必要な対応を行う。必要な対応と記したように、これは身体面だけでなく、心理面について考えることも必要であるからである。そして、アセスメント力は、2 つ目に挙げた、児童生徒の訴えを受容する姿勢と人間力にもつながる。児童生徒の中には様々な悩みを抱えている人もいる。彼らが訴えを話したいと思えるよう、養護教諭は日ごろから言動に注意したり、自ら児童生徒と関わる機会を持ったりすることも時には必要であると考える。そのような日頃の関わりにより、児童生徒の心が開かれ

ることもあるだろう。

3つ目の児童生徒自身が課題に向き合えるようなその人にあった声掛け・指導をする力について、例を挙げて述べる。擦過傷で来室した児童について、砂を落とすことができていなければ砂を流水で洗うように指導する。このように、来室児童生徒に対し個別の保健指導をすることで、その児童生徒が今後一人で対応できる力が備わっていき、これは教育活動である。今回は外科的処置の場面を例として挙げたが、保健室登校などの児童生徒においても、自身が持っている課題と向き合えるように少しずつ指導をしていくことが必要であると考える。

4つ目の連携する力について述べる。養護教諭は専門職としての視点を活かすことは必要であるが、一人で判断・対応することがよいというわけでない。児童生徒のことを一番よく知っている担任と情報共有を行い、児童生徒の対応について等、管理職と連携することも必要である。また、Ⅰでも述べたように、学校三師や地域の関係機関と連携することで、児童生徒の安全を守ったり、よりよい教育を受けることができるように環境を整えたりすることが必要である。

Ⅲ. 目指す養護教諭像について

私は児童生徒全員が教育を受けることができるように、子どもやその家族、そして地域においても目を向けて関わることができる養護教諭を目指したい。

日本国憲法第26条において教育を受ける権利が明記されている。また、教育基本法第4条においても、教育の機会均等について明記されている。現在、外国人児童生徒や児童虐待、発達障害、貧困、アレルギー、医療的ケア児など、学校現場における課題は多様で複雑化している。様々な課題がある中でも、全ての児童生徒が教育を受ける権利が与えられる必要があり、その権利を奪ってはならない。そのためには、生涯学習を送ることができる環境、体制を様々な機関と連携することで作らなければならないと考える。また、多種多様な児童生徒がいることで、児童生徒自身が様々なことを教育の場で感じ、考えることができるということにもつながると考える。

おわりに

私は、教職課程や看護師・保健師課程を経て様々なことを学ぶことができた。その中で、目指す養護教諭像は一層深まった。私は、その児童生徒にあった声掛けができることが課題としてある。この課題に対して、私は看護師として対象者と関わることで、「その人を理解する力」を養っていきたい。そして看護師としての経験は、対象者は違っても、Ⅱで述べたような養護教諭として必要な力を養うことにつながると考える。看護職でもあるという視点を活かした養護教諭としての活動ができるよう、私は今後も精進していく。

養護実習を終えて

看護リハビリテーション学部　看護学科
居内　高穂

保健室

3

実践内容

✏保健室対応

✏保健教育
①発育測定時の保健指導
②保健学習
③ほけんだより作成

✏学級への参加
①授業参観
②給食・昼休み・清掃

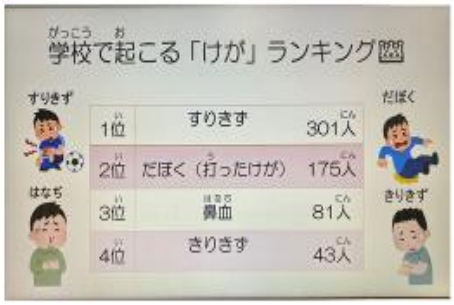
✏特別活動への参加
①クラブ活動(バドミントンクラブ)
②委員会活動（保健委員会）

✏その他
①指導講話
②朝の挨拶運動

4

保健室対応

【新型コロナウイルス感染症予防策】
・自宅にて毎朝の検温、健康状態の確認
・児童、家族に発熱がある場合は出席停止
・体育、給食の時間などやむを得ない場合以外のマスクの着用



問診　いつ、どこで、どんなふうに？

手当て　頭部打撲　熱中症

手当の工夫　ペットボトル湯たんぽ

学級担任との連携も必要となる

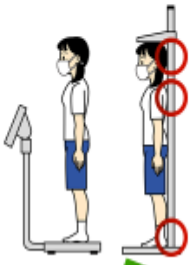
5

発育測定

～身長・体重測定～

場所：多目的室

新型コロナウイルス感染症対策：間隔をあけて座る
1回ずつ器具の消毒



測定結果 ➡ 発育・栄養状態の評価

4月より5kg以上の増加や、体重減少のある場合は、学級担任と情報共有する。

6

保健指導

～発育測定時の保健指導～

- 学年によって言葉や質問を変える
- 児童も参加できる指導
- 小さな発言もキャッチする力

7

視力測定指導資料

8

体育科保健領域 研究授業

～生活リズムは健康のもと～

事前準備で参考になったこと

- 小学校の教科書
- 文部科学省による
  小学校保健教育参考資料
- 養護教諭の学習指導案
- 授業見学をして気づいたこと

指導案めちゃくちゃ書き直しました!!

実践後 よかったところ

○机間巡視ができた
○授業終了時間ぴったりに終わった
○声が出ていた

改善点

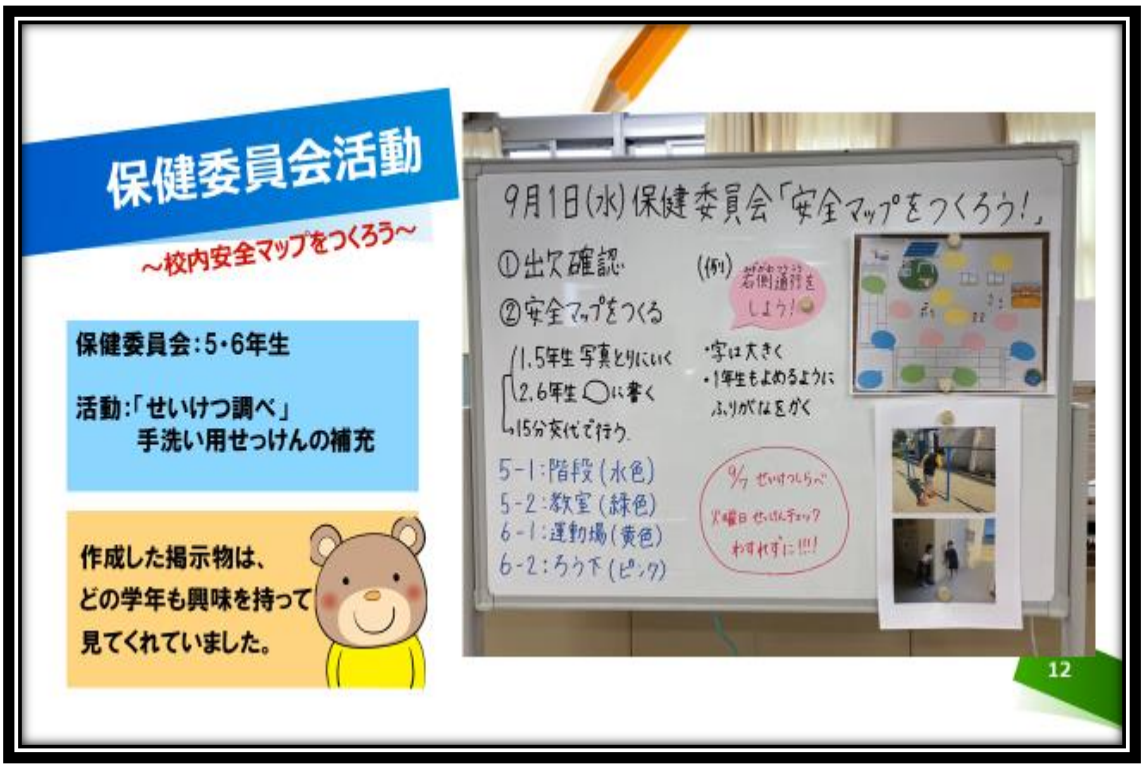
△導入の話
△書く時間・聞く時間・考える時間のメリハリ

9

研究授業の記録

フッターを追加

ほけんだより作成
○手書き
○学校行事
◎児童が興味を持つデザイン
ほけんだより
すこやか
けがをしたときの○と×
11


保健委員会活動
～校内安全マップをつくろう～
保健委員会：5・6年生
活動：「せいけつ調べ」
手洗い用せっけんの補充
作成した掲示物は、
どの学年も興味を持って
見てくれていました。
9月1日(水)保健委員会「安全マップをつくろう！」
①出欠確認
②安全マップをつくる
1.5年生 写真とりにいく
2.6年生 ○に書く
15分交代で行う
(例)
右側通行をしよう！
・字は大きく
・1年生もよめるように
ふりがなをかく
5-1：階段（水色）
5-2：教室（緑色）
6-1：運動場（黄色）
6-2：ろう下（ピンク）
9/7 せいけつしらべ
火曜日 せいけんチェック
わすれずに!!!
12

感染予防対策
熱中症対策

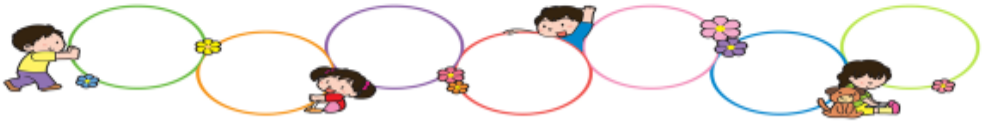
- 石鹸を使った丁寧な手洗いの指導
- 各教室に手指消毒や物品の消毒セットを配布
- 朝のホームルームにて健康観察の実施
- 給食時は黙食
- 音楽の授業での工夫
- 運動場に出るときは帽子をかぶる
- 水筒を持ってくるよう呼びかける

【保健室対応時】
「家族はみんな元気？」

13

これから養護実習を予定している後輩に伝えたいこと

- 教育実習までの期間に「学校保健」「養護学概説」「健康相談活動論」「養護実習（事前授業）」などの復習や準備をしておくこと
- 養護実習中は児童との関わりを楽しむこと



14

保健指導
ありがとうございました

養護実習を終えて

看護リハビリテーション学部　看護学科
谷場　美月

	1組	2組	合計
1年生	27名		27名
2年生	20名	21名	41名
3年生	34名		34名
4年生	23名	22名	45名
5年生	19名	18名	37名
6年生	28名		28名
計9クラス+支援学級5クラス　212名			

実践内容

①保健室対応　②健康診断　③保健指導(1年生、5年生×2クラス)

④保健室前掲示物の作成　⑤保健だよりの作成

⑥休み時間前の帽子チェック　⑦ハンドソープの補充

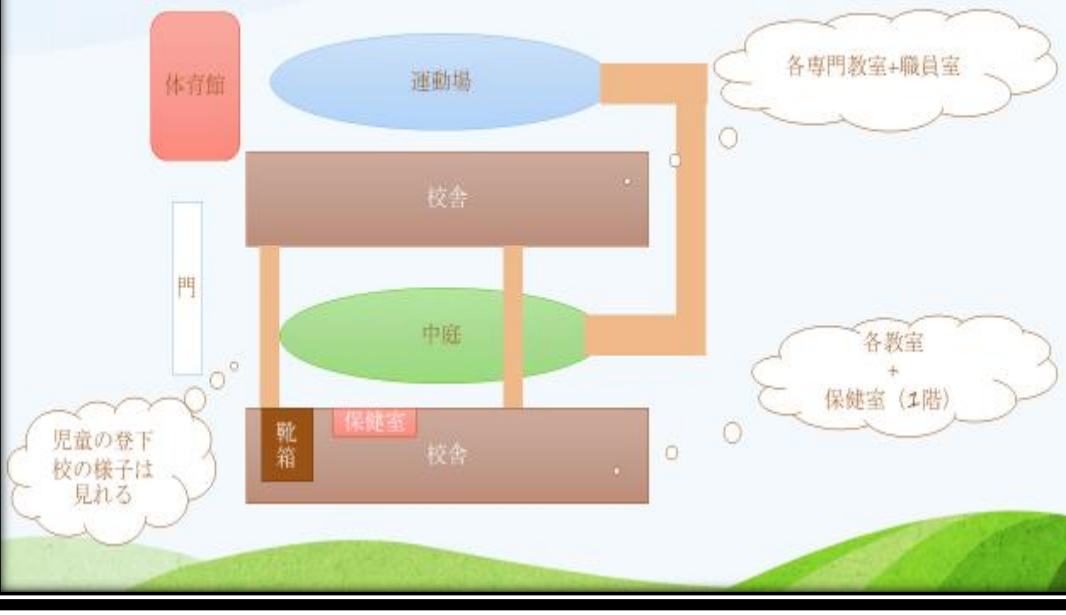
⑧給食の準備　⑨掃除(1年生の教室)

⑩授業の見学(1・5・6年生、人権教育、図書、音楽)

⑪クラブ活動　⑫児童保健委員会活動　⑬応急手当講習

⑭各役割を持つ先生方からの講話(校長先生、教頭先生、養護教諭、司書、児童生徒支援加配)

小学校の保健室



保健室

①-1:保健室対応

4週間の保健室来室の理由≪統計≫

特定の学年が多いことが
あったので、
日頃から注意して児童の様子
を見ました。

・保健指導（保健室来室時までにするべきこと）
　洗ってきたか、先生に伝えてきたか
・怪我した時の状況を丁寧に聞く
　実演、周囲からの情報収集
・いつ、どこで、誰と、何をしていて
　→では次からどうしたらいいか（保健指導）
・経過観察、担任・保護者への連絡
・児童の背景も含めてアセスメントしていく

計およそ226回の来室
1日の平均来室回数:11.3回(内3日午前授業)

①-2:保健室対応

- 保健室登校の児童:1名(4年生)
- 朝学校にきて、半分以上の時間を保健室で過ごす。
- 朝は保護者の方が保健室まで一緒に登校。

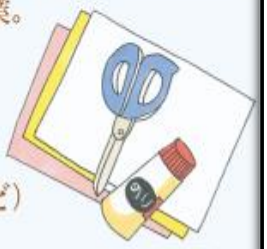
≪実習中の関わり≫

・初日、一緒に保健室の貸し出し用赤白帽子を修復する裁縫作業。

・保健室で勉強している様子の見守り・声掛け。

・授業への送り出し・見守り

・制作物の作成(雨の日の掲示物、ゴミの分別の掲示物、本棚など)



②健康診断

≪実習期間中にあった健康診断≫

・尿検査(2次以降)

・眼科健診

・歯科検診(2回)

≪尿検査≫

・前日のうちに担任に採尿セットと対象者が書かれた紙を渡す。

・名簿を作ってチェックしていく。

・業者の方にお渡しする。

眼科健診
安心できるような声掛け
○のところに眼科の先生が座る席があります。
その手前に生徒が立つマットを張っています。
○は、コロナ対策で空気の流れをよくするために設置。
○は記録係の机。
コロナ対策で一方通行にするために、出ていく扉に向けて→のテープがあります。

歯科検診
児童が立つところに足形マット！
その他の児童は廊下で並ぶ（感染対策）
眼科健診と基本的な会場設定は同じです。
ライトと、歯鏡の交換、手袋の交換ができるようにするということが新たな項目でした。
歯科医の先生の前に写真のような感じで立ってもらいます。
この時も、眼科健診と同様、安心できるよう配慮します。

③-1：保健指導－1年生

・朝食の欠食

・6月でだんだん暑さが本格的になってきた。

　ー暑さに負けない体づくりが必要

　ー規則正しい生活習慣について保健指導

　（授業の時間を20分頂いた。）

③-1：保健指導－1年生

全て手作りのイラストで作成
→関心を持ってもらいやすい°.✧

・飽きさせない！
・楽しく！
・参加型！

・クイズで記憶に定着！
・自信をつけてもらえる内容！

・手拍子！
・リズム遊びで key word を
　印象付ける！

・「できそうですかー？」
→「できなさそう」と答えた児童1名
→どうしてできなさそう？
ではなく・・・
「どれだったらできそうー？」と前向きに返す。

初めから完璧に全部ができなくてもいい。
はじめはこれだけでもやってみようと児童が前向きに取り組める
ように声をかける。

③-2：保健指導－5年生

・初めての宿泊学習を控えている
－集団生活のあり方・公衆道徳

・入浴がある
（二次性徴の個人差が大きい時期）

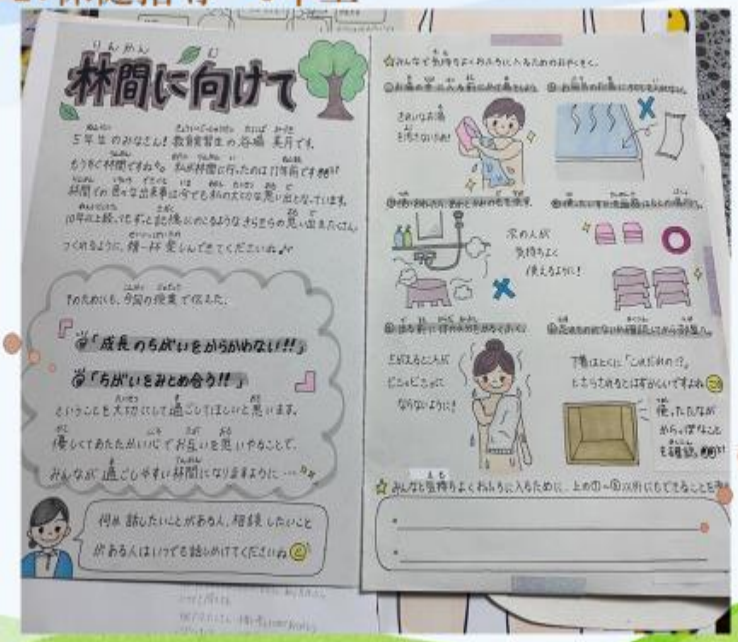
－傷つけない・傷つかないために

－個人差について学ぶ

－違いを認め合う準備

③-2：保健指導－5年生

重要部分は穴埋め！

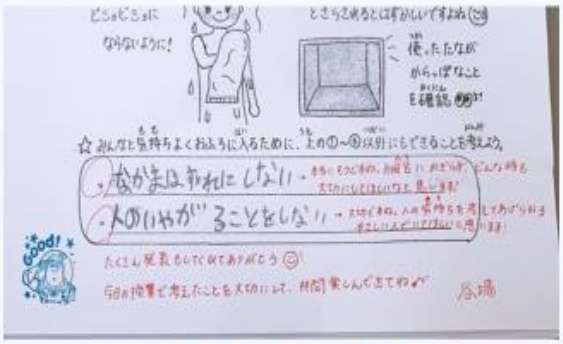


考えたことを記載！

③-2：保健指導－5年生

サニタリーバックやナプキンは全員の前で

実物を見てもらいました。



一人一人に向けて丁寧にコメントを返し、

スタンプを押しました。

・用紙の裏に感想を書いてもらう。
→授業時間の調整がしやすい。
→自分の授業の振り返りもできる。
→児童一人一人が考えてくれたことが分かる。

・机間巡視をして、人とは違った視点からなるほどなと思うことを考えてくれていた児童をあててみんなに発表してもらった。

④保健室前掲示物の作成

・1年生の保健指導で作成したものを掲示物用にアレンジ！
（養護教諭の先生が提案してくださりました!!）

・見るだけで分かるように文字を付け加えました

◎保健室の横は児童の靴箱なので人通りが多くたくさん見てもらえました。

④保健だよりの作成

④保健だよりの作成

帽子・飲み物について
→学校の方針で掲載

1年生での保健指導・
保健室前掲示物の内容を再掲載
→記憶の定着と重要性を伝える。

⑤保健だよりの作成

保健行事についてのお知らせ

行事に合わせてむし歯のお話を記載
→実習前から準備していたもの
※大学図書館の本を参考にしました。

学校における感染対策

- ネット石鹸ではなく、すべてハンソープ
- 全員前を向いて黙食
- 消毒清掃専門のスタッフが導入されていた。
- 教職員も積極的に消毒
- 職員室には各席の向かい側との間にビニールのパーテーション
- 給食の配膳を各クラスが工夫
- 換気
- ペーパータオル・ハンカチを腰にセッティング　など

《学び》
ソーシャルディスタンスなどは限度があるのが現実。
それでも学校で集団感染があまり起こっていない
→最低限度のことはとにかく徹底
→高度なことよりまずは基本を大切に

養護教諭実習で自分自身の学びとして

・児童の背景を知ることの大切さ

・児童の訴えるしんどさや痛みの裏に隠れている心の声に関心を向けること

・話してもらえる存在に－日々のコミュニケーション・関係づくりの大切さ

→①児童、②事務の先生や用務員さん、警備員さんを含む教職員の先生方

・ホウレンソウ・協力・協働の大切さ

・児童の成長の機会を保障すること（その児童に合った方法で）

・保健室での関わりと、保健室以外の場所での関わりのメリハリ

・児童を心から大切に思い、児童の力を信じること。

養護教諭を目指す人に伝えたいこと

・授業数も多くなるので、途中で履修の継続が不安になることもあると思います・・・(・_・;)

・教育実習に是非行ってほしいです。

・保健師と養護教諭の両立を考えている方もきっと大丈夫。

・やり切れると思います♪

・なんといっても、忙しい毎日を共にする養教メンバーが最高の仲間になってくれます°.✧

・私は、養護教諭を履修してよかった、いつか養護教諭をやりたいなと実習を終えて強く思うようになりました。

５．教職支援課の概要

教職支援課は本学教職課程を履修し、教員免許の取得を目指す学生を支援するとともに、免許状更新講習の実施等を通じて、社会的な貢献も果たすべく活動を行っている。

○　教職支援課の支援体制について

教務部長を筆頭として、課室には教員 6 名・事務職員 4 名のスタッフを配置しており、学生相談及び各種事務業務にあたっている。

＜2021 年度 教職支援課スタッフ＞

教務部長　梅原　大輔（国際学部国際英語学科　　教授）
赤井　　悟　（国際学部国際英語学科　　教授）
藤田　昌央（人間科学部総合子ども学科　教授）
曽我　佳子（人間科学部総合子ども学科　助教）
中野　順子（人間科学部総合子ども学科　助教）
他　事務職員 4 名

○　教職支援課の利用について

原則として、利用は本学在学生および卒業生のみとしており、月曜日から金曜日（祝祭日は除く）までの 9：00～18：00 の間、開室している。
※授業実施期間以外は 9：00～17：00 の開室としている。

窓口での相談については、事前予約制をとっており、相談希望者は予約の上、相談をすることができる。相談内容は、履修相談から実習関係、実習で使用するグッズの制作等、幅広く受け付けている。
また、課内には、全国自治体の教員・幼稚園・保育士採用試験問題集や参考書、絵本や手遊びに関する書籍・資料、雑誌等を設置しており、開室時間中は課のフリースペースでの閲覧が可能。書籍の貸出しは行っていないが、一部の書籍については本学図書館に同じ物を配架しているため、貸出し希望の場合は図書館配架の書籍を活用するように案内している。

※コロナ禍では、対面禁止、短縮開室、事前予約、オンライン相談など緊急事態宣言や蔓延防止の状況下に応じて変則的に対応

６．教員の養成の状況についての情報

○教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

本学では、教員養成の目標や取り組みについて、大学全体および各学科・免許ごとに、以下の通り定めている。

[全学]
甲南女子大学は「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「全人教育・個性尊重・自学創造」を教育方針に掲げている。これらを基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性の育成を大学の使命としている。この建学の精神に基づき、教職課程では、幅広い視野と教養を身につけ、高度な専門性および教職への強い使命感を有する教員を養成することを目的としている。この目的を実現するために、本学では少人数教育および個々の学生に応じた教職支援を教員、教職支援センターが組織的、一体的に行っている。こうした支援を通じて、学生が自らの課題を見出し、明確な目的意識の下で専門性の向上に主体的に取り組み、生涯にわたって「学び続ける教師」の育成を目指している。

[文学部　日本語日本文化学科]
日本語日本文化学科では、正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学ぶことを教育課程編成・実施の方針としている。これに基づき、本学科の教職課程では、日本語、日本文学、日本文化について幅広い知識と深い教養を備えた国語科教員を養成することを目的とする。このため、本学科では、少人数制の演習を中心にさまざまな学習の機会を学生に与え、また各教員がきめ細やかに学生を指導することを通じて、教員にふさわしい資質の涵養を目指す。

[文学部　英語文化学科]
英語文化学科では、英語運用能力と言語・文化についての専門知識を十分に身につけた上で教育実践のできる英語教員の養成を目標としている。そのため、カリキュラムには多くの英語科目のほか、広範にわたる分野の専門研究科目を（選択）必修科目として置いている。教職課程と並行して、学科独自の「児童英語教員養成プログラム」の履修も推奨し、幼児・小学生への英語教育も視野に入れることのできる教員の養成を行っている。英語運用能力については、授業外でも e-space（自習スペース）における活動や学習相談などによってサポートし、さらなる伸長を目指している。

[文学部　多文化コミュニケーション学科]
多文化コミュニケーション学科では、グローバル社会の中で活躍できる実践的語学力として高い英語運用能力を身につけるとともに、異文化理解の基礎となる教養や知識の獲得、それを社会の中で貢献していく行動力を養うことを目的としている。これに基づき、本学科の教職課程では、「使える語学」としての英語力と共に、グローバル社会の中で

多様な背景を持つ人たちと積極的にコミュニケーションを取り、交流や仕事ができる人材を育成する。常に世界、日本社会の中での自分の役割について考え、そのために積極的に行動すると共に、教育現場の中でもそれらに関する高い意識と行動力を持った教員を養成することを目指す。

［国際学部　国際英語学科］

国際英語学科では、日常の英語運用能力、言語や文化の理解、グローバルビジネスなどの専門知識を身につけた中学校高等学校英語教員を養成する。そのためカリキュラムには、多くの英語関連科目のほか広範にわたる分野の専門研究科目を必修科目、選択科目として置いている。同時に授業外には、e-space（専任教員が常駐し、英語のみで活動する自習スペース、資料スペース）を設置し、生きた英語運用能力を育成している。また小学校の外国語（英語）導入に対応し、小学校教員免許の取得（神戸親和女子大学通信教育部との協定による）や学科独自の「児童英語教員養成プログラム」の履修を推奨している。

［人間科学部　心理学科］

心理学科では、人の行動や心理に関心を持ち、そのことに関して科学的態度で分析し解明することを志す学生の養成に努めている。したがって教員養成においては、教科科目の専門的知識の習得は当然のこととして、心理学を学んだ経験を活かし科学的見地から有効な教授方法を自ら工夫し活用できるようになることをめざす。加えて、生徒指導などにおいても心理学の知識を有効に活用し、生徒の理解・指導にたけた人材の育成を目的とする。

［人間科学部　総合子ども学科（幼稚園一種免許課程）］

総合子ども学科では、子どもの発達を総合的に捉える「子ども学」を中心に、広く教育現場で活躍できる高度な専門性を備えた人材の育成を目的としている。そのため、幼稚園教職課程では、子ども理解に基づいた総合的な指導力、豊富な現場体験を生かした高度な実践力、同僚との協働関係の構築を可能にするコミュニケーション能力、ならびに新たな教育課題に積極的に取り組む姿勢を有する教員の養成を目指す。

［人間科学部　総合子ども学科（小学校一種免許課程）］

総合子ども学科では、第 1 に、「まことの人間をつくる」という建学の精神に貫かれた学びを通じて、豊かな人間性と柔軟なコミュニケーション力を身につける。第 2 に、「子ども学」を軸とした多彩なカリキュラムを通じて、子どもを広く深く理解する。第 3 に、きめ細かい、丁寧な指導を通じて、高い専門性を身につけた「学び続ける教師」を目指す。以上の 3 つの観点を通じて、質の高い小学校教員養成に取り組む。

［人間科学部　文化社会学科］
文化社会学科では、身の回りで起こっているさまざまな社会現象に対して、自ら動いて情報を集め、集めた情報をもとに自分で答えを出し、その答えを人に向けて的確に伝えることのできる人材の育成を目指している。この方針に基づき、教職課程では、インタビューやアンケートなどの「取材」(社会調査)の手法を学ぶことを通して、社会に氾濫する情報の真偽を自分の目で確かめたうえで、周囲の意見に流されない自分自身の考え方を的確に表現できる教員を養成することを目的としている。

［人間科学部　生活環境学科］
生活環境学科では、持続可能な社会の実現に向けて、幅広い視野に立ち、ヒトと生活環境を形成するモノ（衣・食・住）とコト（法・経済）に関する基本的知識とそれらの相互関係を、学際的かつ実践的に学ぶ。そして、変化し続ける社会に対応しながら、生活者としての責任を自覚し、自立した女性として、ライフスタイルを創造できる力を身につけさせるための「環境教育」に優れた教員を育成することを目標とする。

［看護リハビリテーション学部　看護学科］
看護学科では、看護学の専門性にのっとり、学校教育における幼児・児童・生徒及び教職員を対象とした学校保健活動と養護実践の基盤を培う。そのために、看護学の専門的知識・技術をベースに、1 年次から 4 年次まで系統的に教職科目及び養護専門科目を配置する。また、4 年次には、学校教育に関わる多職種と連携する基礎的・実践的知識の向上にむけて、学生が主体的に課題を探求するための演習を通して、生涯にわたって「学び続ける養護教諭」を養成することを目指している。

［医療栄養学部　医療栄養学科］
医療栄養学科では、栄養教育に関する高度専門知識ならびに技術を習得した管理栄養士が、国民の生涯にわたる食育推進に寄与することを理念とする。学校教育では、教科学習における食に関する指導の実践・普及を進めると共に、健康診断などと連携し個々の児童生徒の健康状況に見合った栄養教育を担う栄養教諭を養成する。

○2021(令和 3)年度　教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

[教員の養成に係る組織及び教員の数]

＜学部＞

教員の養成に係る組織・教員数

2021年度

(単位：人)

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				教科及び教科の指導法に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
文学部	日本語日本文化学科	中高	1	0	1	2	4	1	1	6	8
国際学部	国際英語学科	中高	1	0	1	2	3	4	1	8	10
人間科学部	総合子ども学科	小一	5	1	0	6	6	2	0	8	14

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				領域及び保育内容の指導法に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
人間科学部	総合子ども学科	幼一	6	1	0	7	4	1	0	5	12

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				養護に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
看護ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	養一	1	0	1	2	4	5	4	13	15

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				栄養に係る教育に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
医療栄養学部	医療栄養学科	栄一	1	0	1	2	1	0	0	1	3

専攻	コース	免許種	大学が独自に設定する科目			
			教授	准教授	講師	計
言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中・高専修［国語］	4	0	0	4
	英語英米文学コース	中・高専修［英語］	3	1	0	4
心理・教育学コース	人間教育学コース	幼専修	5	0	0	5
	人間教育学コース	小専修	5	0	0	5

[各教員が有する学位及び業績]

本学 Web サイト上にて公開している。

http://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

[授業の方法および内容並びに年間の授業計画]

本学 Web サイト上にてシラバスを公開している。

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cD01FF288-4275-979B-685B-512FFA513A5C_kE6DE0AC2-D354-0431-342F-931FFEBBBE51

○教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

教員免許取得希望者に対し、神戸市教育委員会協力していただき、学内で神戸市学生スクールサポーター募集の説明会を開催しており、学生がスクールサポーターとして教育現場で活動できる環境を整えている。また、教育実習に先立って、学校でのボランティアに参加する仕組みも有している。さらに、一部授業科目で、教員経験者をゲストスピーカーとして招き、現場の声を聞くことができる内容とするなどしている。また、教職課程履修者が本学園併設の甲南女子中高等学校において授業見学をする機会も設けており、現場の教員との対話などを通じて、実践力を養う取り組みも行っている。

一方で、教職員が都道府県の実施する教員採用試験に係る説明会や、全国私立大学教職課程研究連絡協議会・阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会が実施する研究会やセミナー等に参加し、最新情報の収集や知識を深める努力を行っている。

編集・発行

甲南女子大学　教職支援課

2022 年 9 月 26 日発行

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町 6-2-23
T E L : 078-413-3095 / F A X : 078-413-3901
MAIL : kyomen@konan-wu.ac.jp
U R L : http://www.konan-wu.ac.jp